

# 北里大学東洋医学総合研究所活動報告

## 東洋医学総合研究所

所長 花輪 壽彦  
副所長 村主 明彦

教育・研究・診療・公益事業を中心とした事業を活発に展開した。

公益事業としては、これまで同様に WHO 伝統医学研究協力センター活動、研究活動、及び教育活動を行った。

### 1) 大学院・学部教育

大学院教育：花輪壽彦所長は北里大学大学院医療系研究科「東洋医学」の指導教授（大学院教授）として「東洋医学」専攻の6名（修士課程3名、博士課程3名）の大学院生の教育・研究指導を行った。大学院生の教育・研究指導には村主明彦部長（副所長）、伊藤剛部長（副センター長）、小曾戸洋部長、及川哲郎部長、山田陽城部長、早崎知幸副部長、清原寛章副部長、日向須美子室長、小田口浩 EBM センター室長、若杉安希乃上級研究員らも分担した。山田陽城部門長は北里大学大学院感染制御科学府の「和漢薬利用科学」の特別研究指導教授として2名の博士課程の大学院生と6名の修士課程の大学院生の特別研究及び輪講の指導を行った。研究指導は北里生命科学研究所の和漢薬物学研究室で行った。清原寛章基礎研究部副部長は（生命研准教授）、永井隆之室長補佐（生命研講師）、矢部武士主任（生命研講師）とともに「和漢薬利用科学」の特別研究及び輪講担当教員としての指導及び同大学院の基本技術講座の指導を行った。

学部教育：花輪壽彦所長は引き続き兼任で薬学部（東洋医学概論）の講義を清原寛章副部長（兼任）、早崎知幸副部長（兼任）とともに行った。また、花輪所長は医学部・獣医学部・海洋生命科学部・一般教育部の講義を、また山田陽城部門長は薬学部の生薬学や先端生薬学、教養課程の自校教育や農医連携論の講義を担当した。伊藤 剛部長（兼任）は、医学部の鍼灸概論（生薬理学）の講義を行い、また公衆衛生学の東医研臨床実習を各部門の部長、室長の協力のもと指導した。緒方千秋薬剤科科長、坂田幸治薬剤科科長補佐は、薬学部（生薬学、漢方病院実習）の漢方実習の指導を行った。また東医研からは外部の10大学医学部や薬学部等に講師を派遣し、東洋医学関連の講義を行った。

### 2) 啓蒙活動

北里大学東洋医学総合研究所では、東洋医学の啓蒙活動の一環として、一般の方を対象に例年「東洋医学健康フォーラム」を開催している。第10回目となる平成22年度は、10月9日（土）午後2時から、東京港区の北里大学薬学部コンベンションホールで開催した。

テーマは「メタボリックシンドロームと東洋医学～漢方・鍼灸が脱メタボを応援します～」当日は雨にもかかわらず、都内から大阪まで、143人の参加があった。

講演では「メタボとサヨナラする方法」と題し漢方診療部・小田口浩医長がメタボリック症候群と漢方医学、漢方薬の役割について解説、落語などを交えたユニークな講演が会場を盛り上げた。つづいて薬剤部坂田幸治科長補佐が「漢方薬と生薬」について、その歴史から使い方までを解説した。最後に鍼灸診療部伊東秀憲医員が「ツボであなたも脱メタボ」、自宅でもできるツボのセルフケアの説明は好評で、参加者が自身のツボを確認する姿が見られた。また、ロビーに漢方薬の試飲コーナーを設け、当研究所薬剤部の薬剤師が煎じたばかりの漢方薬を参加者に味わっていただいた。参加者のアンケートを参考に、次年度以降もさらに内容の充実に努め、健康フォーラムを通じて東洋医学の正しい知識と普及に役立てたいと考えている。

### 3) 第31回医学生・研修医のための東洋医学セミナー開催

平成22年7月26～30日までの5日間、『医学生・臨床医のための東洋医学セミナー』が開催された。当セミナーは毎年夏に東洋医学に興味がある医学生・医師を対象とし、今年で32回目となった。受講者は従来の医師、医学生に今年から薬剤師も対象とし、医学生14名、医師10名および2名の薬剤師の計26名の受講生が参加した。

初日は東洋医学の基礎理論と漢方実習、2日目は鍼灸の理論と実習、3日目は生薬学と薬局実習、4日目は漢方各論と東京都薬用植物園見学、5日目は2名の外部講師を招いての講演と東洋医学の総括が行われた。また、昨年に引き続き、医師受講生のみ6日目に漢方外来見学を設け、実際に外来風景を見ることでより漢方診療を身近に感じてもらい、概ね好評であった。

外部講師は明治国際医療大学教授で前全日本鍼灸学会会長の矢野忠先生と前千葉大学大学院教授で日本東洋医学学会会長の寺澤捷年先生で、矢野先生には『鍼灸医学の展望』、寺澤先生には『和漢診療学をめざすもの』というテーマで講演していただいた。

受講生は熱意にあふれ、積極的な質問と感想をいただいた。今後もさらに充実した内容のセミナーとなるよう努めていきたいと考えている。

#### 4) WHO伝統医学研究協力センター関係及び国際交流

##### 1. WHO 伝統医学研究協力センターとしての活動

6月6日、東洋医学総合研究所は富山大学和漢診療学講座、慶熙大学東西医学研究所、ソウル大学天然物科学研究所との間で研究協力の覚書を交わした。これらの施設は日本と韓国に2つずつ存在するWHO 伝統医学研究協力センターである。中医学が席捲する東アジア地域において日韓の伝統医学がその独自性を相互に理解することは重要で意義深いことであり、本ネットワークから生み出される今後の成果が期待される。なお、この覚書内容の具現化として、第1回共同シンポジウムが2011年4月9日に当研究所で開催される予定であり、現在準備中である。

7月20日、WHO 西太平洋地域事務局(WPRO)の短期コンサルタントであるDr. Cordellが来訪した。当研究所のWHO 伝統医学研究協力センターとしての活動を報告し、今後の活動方針について議論した。

12月13日、中国からのWHO フェローシップの研修受け入れを行った。中国人4名であり、所定のプログラムにより1日研修を提供した。

##### 2. 国際交流活動など

当該年度の海外からの来訪者は次の通りである：

- 2月26日と3月1日、大韓韓医師協会メンバー計38名が見学のため来訪。
- 3月1日、台湾の国立中医薬研究所所長のDr. Huangが表敬訪問。
- 6月8日、NGO組織であるワンセンブルグ・モンゴリアからモンゴル人2人を含む4人が来所した。目的はモンゴル伝統医療普及に必要な情報を収集する一環として当研究所の見学を行うことであった。
- 7月14日、Beijing Gingko Groupから中国人2人を含む5人が当施設の見学目的に来訪した。
- 7月20日、(独)科学技術振興機構の依頼で、エジプト研究者20名が来訪し、研究室の見

学および共同研究の可能性についてのディスカッションを行った。

- 7月26日から8月6日まで、慶熙大学学生1名を研修生として受け入れた。
- 7月31日、ノルウェーから1名来訪し、共同研究の打ち合わせを行った。
- 8月6日、大韓韓薬師会などに所属する韓国人3名の見学があった。
- 9月6日から10日にかけて、台湾のShin Kong Wu Ho-Su Memorial Hospitalの医師1名を研修生として受け入れた。
- 9月14日、統合医療の実践をめざすタイより、17名の見学者を受け入れた。
- 11月4日、タイから20名来訪。日本学術振興会-タイ学術振興会(JSPS-NRCT)による日タイ学術交流事業の一環としてのフォローアップセミナーが開催された(北里大生命研にて)。

10月26日、国立韓医学研究所、国立中医薬研究所と当研究所の間で作られた研究協力ネットワークの覚書署名式が韓国大田で行われ、花輪壽彦所長と小田口浩 WHO 伝統医学研究協力センター事務局長が出席した。同時に行われたCurrent Trends of Clinical Research in Traditional Medicineにおいて講演も行った。

12月8日-9日、基礎研究部の山田陽城部長、清原寛章室長がタイのバンコクで開催された第9回日-タイ学術交流事業によるジョイントセミナーに招待され講演を行った。

その他、花輪壽彦所長は11月27日中国の武漢で開催された第8回中国中西医结合学会活血専門委員会学術大会で特別講演を行った。山田陽城部門長は香港、北京、ホノルル等で開催の国際会議やシンポジウムで伝統医学関連の招待講演を行った。

医史学研究部が中国・米国、また基礎研究部がタイ、サウジアラビア、ノルウェー、ブルガリアの研究機関と継続的な国際共同研究を実施した。

現在中華人民共和国が主導して東アジア伝統医学についての種々の標準化が企図されている。花輪壽彦センター長をはじめとする東医研メンバーは、日本東洋医学サミット会議(通称JLOM)を通じて、この標準化を日本の伝統医学である漢方医学の保護、発展につなげるべく活動を行っている。

#### I. 漢方鍼灸治療センター

センター長	花 輪 壽 彦 (兼務)
副センター長	村 主 明 彦 (兼務)
副センター長	伊 藤 剛 (兼務)

## I-1. 診療部門

診療部門長 村 主 明 彦

### I-1-1. 漢方診療部

部 長	花 輪 壽 彦
部 長	村 主 明 彦
部 長	伊 藤 剛 (兼務)
部 長	及 川 哲 郎 (兼務)
副 部 長	鈴 木 邦 彦
副 部 長	早 崎 知 幸
副 部 長	小 田 口 浩
医 員	伊 東 秀 憲 (兼務)
医 員	星 野 卓 之
医 員	望 月 良 子 (4/1～)
漢方レジデント	福 田 知 顕
漢方レジデント	堀 川 朋 恵
漢方レジデント	堀 田 広 満
漢方レジデント	森 裕 紀 子 (4/1～)
漢方レジデント	川 鍋 伊 晃 (4/1～)
非常勤医師	頼 建 守
非常勤医師	櫻 井 正 智
非常勤医師	高 橋 裕 子
非常勤医師	五 野 由 佳 理
非常勤医師	齋 藤 絵 美 (4/1～)
非常勤医師	山 田 和 美 (4/1～)
非常勤医師	石 井 恵 美 (4/1～)
非常勤医師	八 代 忍 (大学院生)
非常勤医師	津 田 篤 太郎 (大学院生)

※漢方診療部は臨床研究部兼務

#### ◇漢方診療の活動概要

北里東医研の診療部門及び薬剤部門は、より親しみやすい漢方鍼灸治療センターの呼称を冠し、さらなる発展を目指している。

当研究所の漢方外来では、湯液を中心にした診療を行っている。当然のことながら、漢方独特の診察法である四診に基づいた随証治療であり、患者個人個人の病態に合わせたキメの細かい、テーラーメイド医療を実践している。

また全国からの患者様を受け入れるために、6つの診察室を毎日フルに活用している。受診時間に関しても、より幅広いニーズに応えるため「トワイライト外来」を設置している。金曜日のみではあるが夜7時まで診療を行い、従来受診できなかった患者への対応を図っている。

漢方診療専門機関である当診療部門には伝統的随証治療の修得と漢方医学の科学的解明を目的に全国、時に世界各地から多くの医師や医学部の学

生が集まる。漢方診療部での受け入れにはいくつかのルートがあるのでここに紹介する。

第一は当研究所独自の漢方レジデント制度である。所属する医局の教授や病院長などの推薦のもと、3年の年限で漢方医学の実際を会得することを目標にしている。1期2～3名を定員として受け入れている。本制度は日本東洋医学会専門医制度に準拠している。当研究所ほど充実した東洋医学のレジデント制は当研究所ならではのものであり、他の追随をゆるさないものと自負している。応募者は漢方については初学者であっても、それぞれの専門分野では既に認定医や専門医として第一線で活躍している中堅医師が大半である。各専門分野に関する最新の知見については、漢方常勤医師側が逆の立場で教わることも多く、互いに鼓舞されるところ大である。第二として、花輪壽彦所長が教授を兼任する北里大学大学院医療系研究科東洋医学の院生としての受け入れである。漢方診療の研修と漢方の基礎・臨床研究に携わりながら、4年後の学位取得を目標としている。個別性を大切にした従来型の漢方に、RCTを導入するなど、エビデンスに基づいた新しい切り口を与えるべく努力を重ねている。サポートには基礎研究部、臨床研究部のスタッフが当たっているが、EBMセンターの助言や指導は研究推進の大きな原動力となっている。第三は北里大学医学部学生の漢方外来見学で、同医学部公衆衛生の実習の一環として受け入れをしている。近年、北里大学薬学部との連繋も強化されてきており、薬学部学生の見学実習も必修化された。第四は医学部のクリニカルクラークシップの実習先として、熱意ある学生を受け入れている。またその他少数であるが、個人的な依頼による短期見学（ただし運営会議において了承される必要あり）にも応じている。第五として、漢方研修生の受け入れ制度がある。本来の所属機関を離れられない医師のために、週に1回（複数回のコースもあり）当漢方外来の漢方専門医（指導医）に陪席し、漢方研修を行なうものである。各科の基本領域の認定医や専門医資格を有する者を対象とし、所定の出席率と指導期間を満たすと日本東洋医学会専門医受験資格が得られる。

さて、当研究所の週間スケジュールを概観してみよう。先輩医師の指導のもと、漢方レジデントあるいは大学院生が陪席し、所長外来の見学を行なう。漢方医学的仮診断・処方（鑑別処方を付記）まで行えれば、それが理想である。実際には所長が診察しながら漢方医学的所見を口頭で伝え、これをカルテに記入していく。漢方診療のプロセスを体得できる数少ない機会である。この他にも当

研究所ではオーベン・ネーベン制を導入し、オーベン外来への陪席の他、マンツーマンでの古典の読み合わせなども行っている。

外来以外にも漢方を学ぶ機会が多数用意されている。新患検討会、医局薬局勉強会、フォローアップ検討会、古典勉強会、抄読会・リサーチカンファレンスなどである。このうち、新患検討会では、会に先立つ1週間の全新規患者のチェックを行なう。漢方外来を始めて日の浅い新人医師は診断のプロセスや鑑別診断まで詳細なプレゼンを課せられる。指導医は自己の症例の中から教育的示唆に富むものを選別しプレゼンを行なう。この会で使用するデータベース作成作業がレジデントに課せられる。新患ひとり一人の舌証・脈証・腹証・方剤等を打ち込んで行くきわめて煩瑣な作業である。しかし、陪席できなかつた他の漢方担当医の処方決定のプロセスを追体験することにもなる。目的意識をもって取り組めば、これほど有益な漢方修得の機会もない。医局薬局勉強会は、生薬と漢方方剤の総合学習の場である。日頃は疑義紹介などでしか接する機会のない医局と薬局の関係であるが、互いの意思疎通をはかる格好の機会となっている。フォローアップ検討会は、外来診療で経験した著効例や難治例など、注目すべき症例につき検討する会である。新患検討会で話題になった症例をもとに、漢方レジデントが考察を加え発表することが多い。古典勉強会では、小曾戸洋医史学研究部長による古典の概説が行われる。当研究所のバックボーンを担う医史学研究部ならではのユニークな講義に、自由参加にも関わらず部署の垣根を越えて毎回多くの受講者を集めている。さらに知識を得たいものには場所を移し、薬酒を酌み交わしながらの会も用意されていると聞く。談論風発、高尚な歴史談義が繰り広げられる。リサーチカンファレンスは、研究面での検討や結果報告を行う機会として、臨床研究部と合同で行っている。研究者と実地医家の貴重な接触の場でもある。

医局には専用の百味筆筒が用意されていて、自身で自由に漢方薬を調合し服用することができる。レジデントには研修期間中に大方の処方については、必ず煎じてその味・におい・服薬のしやすさ等を自ら経験するよう要求される。個々の漢方薬の特徴をつかむと同時に、投与される側の患者の立場を感得する貴重な体験である。特殊な動物性生薬を含む方剤を体験試飲することなど、北里東医研以外ではほとんど無理な話であろう。レジデントにはデスク・ロッカー・PC貸与に加え、手当・福利厚生が保障される。このように北里東医研では漢方三昧の日々を送ることが可能であ

り、漢方を志す者に理想の環境を提供している。

レジデント・常勤医も含め、医局員の大半は臨床研究部研究員および隣接する北里研究所病院総合内科医師を兼任する。倫理委員会の要件を満たせば、動物も含めた各種実験・研究も行うことも可能である。ルーチンの各種血液・生化学検査、画像診断、光学医療診断を行なえることはもちろんで、診療の自由度という点でも申し分のない環境である。東医研から北里研究所病院には毎週上部消化管検査および下部消化管検査、頭痛センター外来などに人員を提供している。さらに、同病院の内科当直業務も分担し万全な協力体制が敷かれている。長年の懸案であった「漢方医学ドック」構想もついに実現され、北研予防医学センターのドック受診者、および東洋医学ドック単独受診者の二段構えで対応している。今後の発展が望まれる。

平成20年4月に学校法人北里学園と社団法人北里研究所の統合がなされ、当研究所は学校法人北里研究所北里大学東洋医学総合研究所へと名称を変更し再スタートを切った。爾来3年が経過し、2011年WHO伝統医学協力センター指定25周年、2012年東洋医学総合研究所創立40周年、同じく2012年北里大学創立50周年、2014年北里研究所創立100周年など様々な周年事業を控えている。

北里東医研は漢方を真に学びたい、普及させたいという様々な要望に多種多様のメニューを準備し対応している。診療・教育・研究のバランスを常に保ちながらその発展に寄与することこそが、日本の本格的漢方診療研究機関のバイオニアを自認する北里・東医研に課せられた使命である。

#### ◇学術論文(学会誌)

- 1) Tomoyuki Hayasaki, Akira Katoh, Masayuki Shojo, Masatomo Sakurai, Tetsuro Oikawa, Yuka Ninomiya, Tatsuhiko Ikeda, Shigehiko Kanaya, and Toshihiko Hanawa Investigation of the pharmacological effect of tokishakuyakusan by global transcriptional analysis in humans J. Trad. Med. 27(2) : 66-77 (2010)
- 2) Tomoyuki Hayasaki, Akira Katoh, Masayuki Shojo, Masatomo Sakurai, Tetsuro Oikawa, Yuka Ninomiya, Tatsuhiko Ikeda, Shigehiko Kanaya, and Toshihiko Hanawa Differences in human gene expression induced by tokisyakuyakusan containing different grades of Angelica radix J. Trad. Med. 27(4) : 166-178 (2010)

◇学術論文(症例報告書)

- 1) 伊藤 剛、及川哲郎、鈴木邦彦、早崎知幸、花輪壽彦：牛車腎気丸により女性化乳房が出現したインスリン依存性糖尿病(IDDM)の1症例 漢方の臨床 57(1)：115-122 (2010)
- 2) 福田知顕、堀田広満、早崎知幸、花輪壽彦：鼻出血と麻黄湯 二例 漢方の臨床 57(2)：295-301 (2010)
- 3) 伊東秀憲、五野由佳理、小田口浩、花輪壽彦：肛門痛に当帰建中湯が有効だった1症例 漢方の臨床 57(3)：444-448 (2010)
- 4) 洪里和良、及川哲郎、伊藤 剛、星野卓之、五野由佳里、花輪壽彦：麗沢通气湯により神経性嗅覚障害が改善した1症例 日本東洋医学雑誌 61(5)：718-721 (2010)
- 5) 堀田広満、花輪壽彦：治療効果に満足をしない心身症を有するアトピー性皮膚炎の兄弟例 漢方の臨床 57(4)：596-602 (2010)
- 6) 堀川朋恵・森裕紀子・花輪壽彦：半夏厚朴湯が有効であった不整脈症例2例 漢方の臨床 57(6)：928-933 (2010)
- 7) 森裕紀子、早崎知幸、川鍋伊晃、花輪壽彦：芍帰調血飲が有効であった3症例 漢方の臨床 57(8)：1383-1386 (2010)
- 8) 鈴木邦彦、及川哲郎、花輪壽彦：桂枝加附子湯が有効であった三症例 漢方の臨床 57(9)：1483-1488 (2010)
- 9) 川鍋伊晃、早崎知幸、八代忍、福田知顕、花輪壽彦：温経湯により頸椎後縦靱帯骨化症に伴うしびれと運動障害が軽快した一例 漢方の臨床 57(10)：1709-1713 (2010)
- 10) 森 裕紀子、八代 忍、堀田広満、早崎知幸、花輪壽彦：可動域制限を伴う右股関節痛に芍甘黄辛附湯が有効だった1例 漢方の臨床 57(12)：2065-2068 (2010)

◇学術論文(総説)

- 1) 花輪壽彦：腹診とはなにか 漢方と診療 1(3)：164-166 (2010)
- 2) 花輪壽彦：アトピー性皮膚炎の漢方治療の実際 皮膚の科学 9(15)：15-19 (2010)
- 3) 花輪壽彦：腹力を診る 漢方と診療 1(4)：238-240 (2010)
- 4) 伊藤 剛：自律神経障害の理解に役立つ東洋医学・鍼灸医学の知識 神経治療学 27(6)：771-778 (2010)

◇学会発表(シンポジウム, パネル)

- 1) 花輪壽彦：アトピー性皮膚炎と漢方～臨床の立場から～ アトピー性皮膚炎治療研究会第

15回シンポジウム(大阪) 2010. 2. 6

- 2) 花輪壽彦：漢方の臨床 28年の経験から 第18回天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京) 2010. 11. 12
- 3) 早崎知幸：漢方診療の実際 第18回天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京) 2010. 11. 12

◇学会発表(一般演題)

- 1) 堀田広満、村主明彦、伊藤 剛、花輪壽彦：発作性夜間血色素尿症に十全大補湯が有効であった一例 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5
- 2) 星野卓之、天野陽介、小曾戸洋、花輪壽彦：温清飲の成立過程及び日中における応用の変遷 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5
- 3) 望月良子、津田篤太郎、早崎知幸、花輪壽彦：難治性顔面紅斑が漢方治療により著明に改善した全身性エリテマトーデスの1例 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5
- 4) 福田知顕、早崎知幸、高橋裕子、伊藤 剛、村主明彦、花輪壽彦：栝楼枳実湯処方症例の検討～気管支拡張症を中心に～ 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5
- 5) 鈴木邦彦、花輪壽彦：慢性扁桃炎に対する竹葉湯の使用経験 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5
- 6) 堀川朋恵、村主明彦、花輪壽彦：様々な部位の冷えと煩熱に清熱補血湯が有効であった一例 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 6
- 7) 早崎知幸、福田知顕、花輪壽彦：過眠症に対する加味温胆湯の使用経験 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 6
- 8) 星野卓之、天野陽介、小曾戸洋、花輪壽彦：龔廷賢方の清代医学文献における引用一日中医学の相違一 第111回日本医史学会学術大会(茨城) 2010. 6. 13
- 9) 森裕紀子、八代忍、早崎知幸、花輪壽彦：可動域制限を伴う右股関節痛に芍甘黄辛附湯が有効だった1例 第20回漢方治療研究会(東京) 2010. 9. 26
- 10) 川鍋伊晃、早崎知幸、八代忍、花輪壽彦：温経湯により頸椎後縦靱帯骨化症に伴うしびれと運動障害が改善した一例 第20回漢方治療研究会(東京) 2010. 9. 26
- 11) 福田知顕、津田篤太郎、早崎知幸、及川哲郎、花輪壽彦：ダサチニブによる胸水に対し柴陷湯が奏効したフィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の1例 第67回日本東洋医

学会関東甲信越支部総会(埼玉) 2010. 10. 17

◇学会発表(特別講演)

- 1) 星野卓之：消化器病と漢方 第17回千葉県東総地区消化器症例検討会(千葉) 2010. 2. 5
- 2) 伊藤 剛：自律神経障害の理解に役立つ東洋医学・鍼灸医学の知識(教育講演) 第28回日本神経治療学会総会(神奈川) 2010. 7. 15
- 3) 花輪壽彦：漢方と予防医学について 第51回日本人間ドック学会学術大会(北海道) 2010. 8. 27
- 4) 花輪壽彦：近代漢方の過去・現在・未来 第20回漢方治療研究会(東京) 2010. 9. 26
- 5) 伊藤 剛：(教育セミナー)あなたならどうする、自律神経障害の臨床—漢方医学の立場から— 第63回日本自律神経学会総会(神奈川) 2010. 10. 23
- 6) Toshihiko Hanawa, Odaguchi Hiroshi  
Current situation of Oriental Medicine  
Research Center, Kitasato University, Japan,  
Cooperative seminar of global research  
network for traditional medicine The  
16th anniversary of KIOM international  
symposium 2010 2010. 10. 26
- 7) 花輪壽彦：日本漢方の特徴と動脈硬化の進展  
予防について 第8回中国中西医結合学会活  
血専門委員会学術大会 2010. 11. 27

◇公開講座

- 1) 早崎知幸：花粉症と漢方治療 第93回相模原市医師会東洋医学研究会 医師のための漢方入門講座(神奈川) 2010. 1. 13
- 2) 早崎知幸：人になれていない若者たち 第8回明るいまるい明日を考える集い(東京) 2010. 1. 17
- 3) 齋藤絵美：婦人科疾患と漢方 第8回北里漢方医学セミナー(神奈川) 2010. 1. 20
- 4) 望月良子：困った皮膚病に漢方を使ってみよう ツムラ皮膚科領域セミナー(東京) 2010. 2. 10
- 5) 早崎知幸：早崎先生の漢方入門セミナー 株式会社ツムラ東京支店主催漢方入門セミナー(東京) 2010. 2. 21
- 6) 花輪壽彦：漢方概論 平成22年度漢方薬・生薬研修会(東京) 2010. 4. 18
- 7) 花輪壽彦：漢方各論—免疫・アレルギー— 平成22年度漢方薬・生薬研修会(東京) 2010. 4. 18
- 8) 早崎知幸：ストレスと漢方治療 第94回相模原市医師会東洋医学研究会 医師のための漢方入門講座(神奈川) 2010. 4. 21

- 9) 早崎知幸：癌の漢方治療 西那須野塩原地区医師会定例会(栃木) 2010. 5. 20
- 10) 望月良子：皮膚疾患の漢方治療 明治薬科大学 薬剤師生涯学習講座(東京) 2010. 6. 27
- 11) 星野卓之：消化器疾患に対する漢方治療 さがまちコンソーシアム大学「健康に役立つ東洋医学」(神奈川) 2010. 7. 4
- 12) 星野卓之：生薬からみた消化器疾患の漢方治療 2010東京都女性薬剤師会・夏期研修会漢方講座(東京) 2010. 7. 11
- 13) 早崎知幸：薬剤師として知っておきたい漢方概論—高齢者疾患を例として— 2010東京都女性薬剤師会・夏期研修会漢方講座(東京) 2010. 7. 11
- 14) 望月良子：皮ふ病の漢方治療 さがまちコンソーシアム大学「健康に役立つ東洋医学」(神奈川) 2010. 7. 18
- 15) 早崎知幸：がん治療における漢方薬導入のすすめ 第11回OSAKA漢方研究会(大阪) 2010. 7. 31
- 16) 伊藤 剛：舌と腹診 医師専門Acupunctureセミナー(予防医療臨床研究会)(東京) 2010. 8. 8
- 17) 花輪壽彦：現代医療における漢方の役割 日本東洋医学会卒前教育セミナー(東京) 2010. 8. 23
- 18) 鈴木邦彦：冷え症の漢方治療 明治薬科大学 薬剤師生涯学習講座(東京) 2010. 9. 26
- 19) 早崎知幸：婦人不定愁訴と漢方治療 第96回相模原市医師会東洋医学研究会 医師のための漢方入門講座(神奈川) 2010. 10. 27
- 20) 花輪壽彦：漢方の体質診断と健康増進 学際生命科学東京コンソーシアム第4回市民講演会(東京) 2010. 10. 23
- 21) 星野卓之：消化器疾患と漢方 明治薬科大学 薬剤師生涯学習講座(東京) 2010. 10. 31
- 22) 花輪壽彦：漢方による病気の予防と治療について 野村病院予防医学センター友の会(東京) 2010. 11. 6
- 23) 花輪壽彦：漢方各論—漢方診療の諸注意— 平成22年度漢方薬・生薬研修会(東京) 2010. 12. 19
- 24) 花輪壽彦：漢方のまとめ 平成22年度漢方薬・生薬研修会(東京) 2010. 12. 19

◇その他

- 1) 伊藤 剛：FNNスーパーニュースアンカー「冷え症男子」の今時事情 関西テレビ2010. 1. 8
- 2) 伊藤 剛：今年の「冷え」は衣服で解決 すこ

- やかファミリー 2月号：18-19 2010. 1. 15
- 3) 花輪壽彦：大塚恭男先生のカルテから 筑豊漢方研究会特別講演会(福岡) 2010. 1. 23
  - 4) 花輪壽彦：「ツムラ・メディカル・トゥデイ」医人列伝シリーズ「吉益東洞」 株式会社日経ラジオ社 2010. 1. 27
  - 5) 花輪壽彦：臨床研究の成果と展望 第19回学校法人北里研究所学会賞受賞者特別講演会、平成21年度大塚敬節記念東洋医学賞(日本東洋医学会)(東京) 2010. 1. 29
  - 6) 早崎知幸：注目の診療科③「漢方外来」JAMIC JOURNAL (30)2：24 2010. 2. 1
  - 7) 星野卓之：KMC病院漢方外来開設にあたって 2010. 2. 23
  - 8) 早崎知幸：健康「漢方薬」はいから春号 vol. 53：50-52 2010. 3. 1
  - 9) 伊藤 剛：イマドキ男子を斬る(冷え症男子) 女性セブン 3月18日号：113 2010. 3. 4
  - 10) 花輪壽彦：現代医療における漢方の役割 浜松漢方シンポジウム(静岡) 2010. 3. 6
  - 11) 花輪壽彦：漢方道場 日本経済新聞(電子版) 毎週月曜日連載 2010. 3. 23～2010. 12. 27
  - 12) 伊藤 剛：東洋医学と西洋医学 静岡県立大学看護学部(医療論講義)(静岡) 2010. 5. 21
  - 13) 伊藤 剛：「ツムラ・メディカル・トゥデイ」医人列伝シリーズ「和田東郭」 株式会社日経ラジオ社 2010. 5. 26
  - 14) 花輪壽彦：漢方医学概論 浜松医科大学合同講義(静岡) 2010. 6. 21
  - 15) 星野卓之：「ツムラ・メディカル・トゥデイ」医人列伝シリーズ「原南陽」 株式会社日経ラジオ社 2010. 6. 23
  - 16) 望月良子：皮膚疾患の漢方治療 北里大学薬学部4年前期東洋医学精説 2010. 6. 30
  - 17) 花輪壽彦：漢方医学の臨床(その1) 北里大学薬学部4年前期東洋医学精説(東京) 2010. 6. 30
  - 18) 花輪壽彦：漢方の現状と展望 北里大学医学部3年薬理学総論(東洋医学)(神奈川) 2010. 7. 2
  - 19) 花輪壽彦：漢方診療の標準化について 神奈川県4大学医学部FDフォーラム漢方医学ユニット第4回合同研修(神奈川) 2010. 7. 3
  - 20) 伊藤 剛：体の道具 ピカイチ辞典 5歳若い自分に戻る本 2010～2011年版：79 2010. 7. 15
  - 21) 花輪壽彦：東洋医学の基礎—陰陽虚実・気血水・証について— 第32回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー(東京) 2010. 7. 26
  - 22) 早崎知幸：「ツムラ・メディカル・トゥデイ」医人列伝シリーズ「華岡青洲」 株式会社日経ラジオ社 2010. 7. 28
  - 23) 花輪壽彦：東洋医学の特質と展望 第32回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー(東京) 2010. 7. 30
  - 24) 伊藤 剛：世界一受けたい授業 あなたの知らない現代病「内蔵型冷え性」の恐怖 日本テレビ放送 2010. 8. 7
  - 25) 伊藤 剛：「名医がズバリ腰痛を治す・漢方が効く腰痛」 日刊ゲンダイ 2010. 8. 17
  - 26) 伊藤 剛：「名医がズバリ腰痛を治す・漢方薬の注意点」 日刊ゲンダイ 2010. 8. 31
  - 27) 伊藤 剛：「エアコン賢く使って」くらしナビ(生活Lifestyle) 毎日新聞 2010. 8. 31
  - 28) 花輪壽彦：東洋医学入門 北里大学薬学部3年後期東洋医学概論(東京) 2010. 9. 8
  - 29) 早崎知幸：漢方医学の基礎知識 北里大学薬学部3年後期東洋医学概論(東京) 2010. 9. 15
  - 30) 早崎知幸：漢方エキス製剤のやさしい使い方 北里大学薬学部3年後期東洋医学概論(東京) 2010. 9. 22
  - 31) 早崎知幸：各科疾患の漢方治療1 北里大学薬学部3年後期東洋医学概論(東京) 2010. 9. 29
  - 32) 花輪壽彦：薬剤師研修への期待～漢方臨床医の眼から～(東京)2010. 10. 1[JPEC BULLETIN 研修センターニュース No.197 p.1-2]
  - 33) 早崎知幸：各科疾患の漢方治療2 北里大学薬学部3年後期東洋医学概論(東京) 2010. 10. 6
  - 34) 伊藤 剛：ワイドスクランブル 今から冬に備える“冷え性対策” テレビ朝日 2010. 10. 28
  - 35) 伊藤 剛：漢方・鍼灸の心身医療 平成22年度つくし会総会特別講演(東京) 2010. 10. 29
  - 36) 星野卓之：漢方併用で効果 麻黄湯 インフル治療 東京新聞 2010. 11. 2
  - 37) 伊藤 剛、矢崎智子、斑目健夫、安保 徹：「漢方&薬膳 冷えとりバイブル」多くの不調を招く「低体温」解消プログラム 日経BPムック(日経ヘルス)：28-39 2010. 12. 1
  - 38) 伊藤 剛：「みんなの家庭の医学」長引くあなたの冷え、その原因を徹底解明！スペシャル テレビ朝日 20：00-21：00 2010. 12. 7
  - 39) 花輪壽彦：腎・尿路の東洋医学 北里大学医学部3学年腎・尿路系I(神奈川) 2010. 12. 20
  - 40) 星野卓之：「ツムラ・メディカル・トゥデイ」医人列伝シリーズ「浅田宗伯」 株式会社日経ラジオ社 2010. 12. 22

◇受賞  
なし

## I-1-2. 鍼灸診療部

部長(医師)	伊藤	剛
医員(医師)	伊東	秀憲
科長補佐(鍼灸師)	小山	基
係長(鍼灸師)	石原	武
助手(鍼灸師)	井田	剛人
助手(鍼灸師)	黒岩	奈々子
鍼灸師レジデント	和田	志帆
鍼灸師レジデント	宮川	歩
非常勤医師	石野	尚吾
非常勤医師	柳澤	紘
非常勤鍼灸師	掛川	一五
非常勤鍼灸師	益山	亜紀子

### ◇診療概要

東洋医学総合研究所の鍼灸診療部の外来診療には、医師4名(常勤2名、非常勤2名)ならびに鍼灸師6名(常勤4名、非常勤2名)の10名が交代であり、鍼灸師レジデント2名(1年目、2年目各1名)、研修生17名(鍼灸師14名、漢方医レジデント3名)ならびに看護師1名がサポートしている。診療は祭日を除く、月曜日から金曜日までの午前・午後と土曜日の午前を予約制で行っている。

初診患者の予診は医師と鍼灸師が行っているが、予診内容と診断については必ず常勤医師2名が現代医学的チェックを行っている。また新患については毎週1回(金曜日)、診療スタッフと研修生とで新患検討会を行い、現代医学的判断により病名ならびに鍼灸治療方針の確認を行っている。

なお、本年は景気の低迷化や施術者の長期休診等で診療患者数に影響が出たが、新たに鍼灸師2名(井田、黒岩)が外来診療に加わり、また平成22年は鍼灸や漢方関連で伊藤による年間6回のテレビ番組出演や新聞連載記事などの影響で、新患患者数が増加し、平成22年の外来患者受診数は12,121人(内、初診患者数は712人)と昨年とほぼ同様となった。

新患患者の疾患傾向として、腰痛・肩こりなどが最も多かったが、最近では腰部や頸部の脊柱管狭窄症、坐骨神経痛、変形性膝関節症などの症例や、内科疾患、慢性疼痛症候群、身体表現性障害などの患者も増加してきている。

### ◇教育概要

教育と研究を充実させるため平成20年に本邦初の鍼灸師レジデント制度を開始し、本年で3年目となる。鍼灸師レジデント・プログラムは原則

2年間の研修で、鍼灸の診療技術だけでなく、古典医学と現代医学的知識、研究に必要な技術を習得し、世界的な視野を持った鍼灸師を育成する事に目的がある。平成22年度のレジデント応募者数は9名であったが、2月に筆記試験(英語、小論文)と面接を行い1名の鍼灸師レジデント(宮川)を採用した。

一方、鍼灸師の資格を有した鍼灸研修生は1年間の期間中に、脈診や北里方式経絡治療の基礎や診療技術を学ぶだけでなく、医療従事者としての心構え、患者対応、勉強法などを習得することを目的としている。平成22年度の応募者数は30名であったが、2月に面接試験を行い8名の研修生を採用した。また途中から鍼灸師大学院生1名が研修に加わった。

教育内容としては、これら鍼灸師レジデントならびに鍼灸研修生を対象に、診療研修とともに毎週金曜日に新患検討会、鍼灸古典抄読会(平成22年は『靈枢』を用いた)、現代鍼灸に関する論文(英文)の抄読会、症例検討会などの勉強会や、脈診や経穴の実習を行った。

さらに医師に対する鍼灸教育として、平成22年度は3名の漢方レジデント(内科医、神経内科医、小児科医)に対し、漢方の研修に加え、鍼灸の基礎である経穴・経絡について鍼灸関連書籍の輪読会と実習、ならびに鍼灸外来の体験実習を隔週で行った。またこれまでの研究を基に、医師のために現代鍼灸医学の理論と診断を解説した書籍「Acupuncture」を出版した。

これら鍼灸師や医師に対する教育だけでなく、大学の学生に対する教育実習も行っている。平成22年度は北里大学医学部を始め、浜松医科大学医学部、静岡県立大学看護学部など他大学の学生に対しても鍼灸講義が行われ、また北里大学医学部のクリニカル・クラークシップ、横浜市立大学医学部のフリー・クォーター制度における東医研実習期間においては医学部学生に対し鍼灸診療部の外来見学と講義による教育が行われた。

また毎年夏に、東医研主催で行っている「医学生と臨床医のための夏期セミナー」では、全国から医学生や東洋医学の研修を希望する医師達が集い、1週間のうちの1日をかけ、鍼灸の基礎・歴史と理論・現代医学的研究などの講義などが行われ、実習では脈診の採り方、鍼の刺入方法などを体験学習し好評を得た。

その他、一般市民に対する啓蒙活動として、毎年秋に東医研主催で開催している「健康フォーラム」において、メタボリックシンドロームに対する鍼灸治療に関する講演も行われた。



#### ◇研究概要

WHOでは伝統医学を守る上で、Evidence-based health care practiceを推進している。当鍼灸部門でも世界的な視野から、臨床研究と基礎研究によりEBMを作り上げる必要がある。現在検討中の臨床研究では、冷え症に対する鍼灸治療効果、脈診など鍼灸診断の現代医学的評価、経絡治療の意義など、基礎研究では、鍼の作用メカニズム、各経穴に対する鍼の生理的作用、機能的消化管障害の鍼灸医学的解明、経絡現象の解明などである。

学会活動においては、6月に行われた第59回全日本鍼灸学会学術大会には、肩こりに対する円皮鍼のランダム化クロスオーバー試験を始め、足関節脱臼後疼痛、嗅覚障害、顔面・頭部痛、五十肩などに対する針灸治療症例報告や初診患者アンケート報告など6演題を発表し、また第61回日本東洋医学会学術総会では、鍼治療と自律神経バランスに関する演題を発表した。さらに第28回日本神経治療学会総会において「自律神経障害の理解に役立つ東洋医学・鍼灸医学の知識」と題する教育講演を行なう機会が得られ、医師に対する鍼灸の啓蒙活動を行うことができた。

その他、平成22年度より北里大学大学院医療系研究科(東洋医学専攻)の大学院修士課程学生を受け入れた。

#### ◇学術論文(総説)

- 1) 伊藤 剛:(特集)学際的視野で学ぶ自律神経学(その1)～鍼灸医学からみた自律神経機能～神経内科 72(1):8-15 (2010)
- 2) 伊藤 剛:(特集)顔面痙攣と針灸治療～顔面痙攣の原因・診断・東西の治療法～医道の日本 69(2):24-30 (2010)
- 3) 伊藤 剛:自律神経障害の理解に役立つ東洋医学・鍼灸医学の知識 神経治療学 27(6):771-778 (2010)

#### ◇著書(学術書)

- 1) 伊藤 剛:Acupuncture 医師のための現代鍼灸医学(理論と診断) (2010)

#### ◇学会発表(一般演題)

- 1) 伊藤 剛、伊東秀憲、和田志帆、黒岩奈々子、井田剛人、石原 武、小山 基、花輪壽彦:腰痛に対する鍼治療効果を電子瞳孔計による自律神経バランスから評価し得た1症例 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 6
- 2) 伊東秀憲、和田志帆、黒岩奈々子、井田剛、伊藤剛、花輪壽彦:肩こりに対する円皮鍼の

有用性の検討～ランダム化クロスオーバー比較試験～ 第59回全日本鍼灸学会学術大会(大阪) 2010. 6. 12

- 3) 黒岩奈々子、和田志帆、井田剛人、石原武、小山 基、伊東秀憲、伊藤 剛、花輪壽彦:足関節脱臼骨折術後疼痛に鍼治療が有効であった一症例 第59回全日本鍼灸学会学術大会(大阪) 2010. 6. 12
- 4) 石原 武、小山 基、伊東秀憲、伊藤 剛、花輪壽彦:鍼灸初診患者に実施したアンケート調査について一初診患者・再初診患者の受診動機など一 第59回全日本鍼灸学会学術大会(大阪) 2010. 6. 12 [第59回全日本鍼灸学会学術大会抄録集p.]
- 5) 井田剛人、和田志帆、黒岩奈々子、石原 武、小山 基、伊東秀憲、伊藤 剛、花輪壽彦:嗅覚障害に迎香穴の点灸が効いた1症例 第59回全日本鍼灸学会学術大会(大阪) 2010. 6. 12
- 6) 小山 基、和田志帆、黒岩奈々子、井田剛人、石原 武、伊東秀憲、伊藤 剛、花輪壽彦:五十に対し本治法のみ鍼治療が有効であった2症例 第59回全日本鍼灸学会学術大会(大阪) 2010. 6. 13
- 7) 伊藤 剛、伊東秀憲、和田志帆、黒岩奈々子、井田剛人、石原 武、小山 基、花輪壽彦:顔面・頭部の痛みに足第3第4趾間の圧痛が出現した5症例 第59回全日本鍼灸学会学術大会(大阪) 2010. 6. 13
- 8) 小山 基、和田志帆、黒岩奈々子、井田剛人、石原 武、伊東秀憲、伊藤 剛、花輪壽彦:五十肩に対し本治法のみ鍼治療が有効であった2症例 第59回全日本鍼灸学会学術大会(大阪) 2010. 6. 13

#### ◇学会発表(特別講演)

- 1) 伊藤 剛:自律神経障害の理解に役立つ東洋医学・鍼灸医学の知識(教育講演) 第28回日本神経治療学会総会(神奈川) 2010. 7. 15

#### ◇公開講座

- 1) 伊藤 剛:現代鍼灸医学へのアプローチ 医師専門Acupunctureセミナー(予防医療臨床研究会)(東京) 2010. 2. 28
- 2) 伊東秀憲:健康に役立つ東洋医学、痛みと鍼灸治療 さがまちコンソーシアム大学「健康に役立つ東洋医学」 2010. 8. 1
- 3) 伊藤 剛:舌と腹診 医師専門Acupunctureセミナー(予防医療臨床研究会)(東京) 2010. 8. 8
- 4) 伊東秀憲:メタボリックシンドロームと東洋

医学、ツボであなたも脱メタボ 第10回東洋医学健康フォーラム(東京) 2010. 10. 9

- 5) 伊東秀憲：実習シリーズ4(鍼灸) 北里漢方医学セミナー 2010. 11. 18

#### ◇その他

- 1) 伊藤 剛：FNNスーパーニュースアンカー「冷え症男子」の今時事情 関西テレビ 2010. 1. 8
- 2) 伊藤 剛：今年の「冷え」は衣服で解決 すこやかファミリー 2月号：18-19 2010. 1. 15
- 3) 伊藤 剛：イマドキ男子を斬る(冷え症男子) 女性セブン 3月18日号：113 2010. 3. 4
- 4) 伊藤 剛：「みんなの家庭の医学」女性に多い病スペシャル(ツボで解消女性の悩み) テレビ朝日 2010. 5. 4
- 5) 伊藤 剛：東洋医学と西洋医学 静岡県立大学看護学部(医療論講義)(静岡) 2010. 5. 21
- 6) 伊藤 剛：鍼灸概論 浜松医科大学医学部(東洋医学講義)(静岡) 2010. 6. 30
- 7) 伊藤 剛：鍼灸概論 北里大学医学部3年 生薬理学講義(神奈川) 2010. 7. 1
- 8) 伊藤 剛：「名医がズバリ腰痛を治す・針治療①」 日刊ゲンダイ 2010. 7. 13
- 9) 伊藤 剛：体の道具 ピカイチ辞典 5歳若い自分に戻る本 2010～2011年版：79 2010. 7. 15
- 10) 伊藤 剛：鍼灸の基礎～古代中国医学より現代鍼灸へ～ 第32回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー(東京) 2010. 7. 27
- 11) 伊藤 剛：鍼灸の理論～現代科学より見た鍼灸のメカニズム～ 第32回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー(東京) 2010. 7. 27
- 12) 伊藤 剛：「名医がズバリ腰痛を治す・針治療②」 日刊ゲンダイ 2010. 7. 27
- 13) 伊藤 剛：「名医がズバリ腰痛を治す・針治療③」 日刊ゲンダイ 2010. 8. 3
- 14) 伊藤 剛：世界一受けたい授業 あなたの知らない現代病「内蔵型冷え性」の恐怖 日本テレビ放送 2010. 8. 7
- 15) 伊藤 剛：「名医がズバリ腰痛を治す・針治療④」 日刊ゲンダイ 2010. 8. 10
- 16) 伊藤 剛：「名医がズバリ腰痛を治す・お灸で痛みを和らげる」 日刊ゲンダイ 2010. 8. 24
- 17) 伊藤 剛：「バテた体にツボで『喝!』」 日経産業新聞 2010. 8. 27
- 18) 伊藤 剛：「エアコン賢く使って」くらしナビ(生活Lifestyle) 毎日新聞 2010. 8. 31
- 19) 伊藤 剛：鍼灸医学総論 第16回北里漢方医学セミナー(神奈川) 2010. 10. 28

- 20) 伊藤 剛：ワイドスクランブル 今から冬に備える“冷え性対策” テレビ朝日 2010. 10. 28
- 21) 伊藤 剛：漢方・鍼灸の心身医療 平成22年度つくし会総会特別講演(東京) 2010. 10. 29
- 22) 伊藤 剛：「真相報道バンキシャ」韓国囲碁選手の頭部に鍼 日本テレビ 2010. 11. 5
- 23) 伊藤 剛、矢崎智子、斑目健夫、安保 徹：「漢方&薬膳 冷えとりバイブル」多くの不調を招く「低体温」解消プログラム 日経BPムック(日経ヘルス)：28-39 2010. 12. 1
- 24) 伊藤 剛：「みんなの家庭の医学」長引くあなたの冷え、その原因を徹底解明! スペシャルテレビ朝日 20：00-21：00 2010. 12. 7

## I-2. 薬剂部門

薬剂部門長(医師・薬剂師) 村主 明彦(兼務)

### I-2-1. 薬剂部

科 長(薬剂師)	緒 方 千 秋
科長補佐(薬剂師)	坂 田 幸 治
主 任(薬剂師)	中 村 恵 子(9/27産休)
部 員(薬剂師)	高 際 麻奈未
部 員(薬剂師)	室 生 真千子
部 員(薬剂師)	須 藤 岳 大
部 員(薬剂師)	山 下 知 子
部 員(薬剂師)	中 村 ひろみ(3/31退職)
部 員(薬剂師)	星 真奈美
部 員(薬剂師)	矢 部 景 子
非常勤(薬剂師)	小 林 文 子(7/31退職)
研修生(薬剂師)	山 田 智 之(4/1入局)
研修生(薬剂師)	久保田 嘉 郎(4/8入局)

#### ◇研究概要

本薬剂部は、漢方薬を専門に扱う診療機関内の薬剂部門である。当研究所は、臨床・研究・教育の責を担っている機関であることから、我々は臨床において、患者・医師へフィードバック可能で、診療に貢献できる研究を行っている。その研究は、DI(医薬品情報)に関連した内容1)～5)、科学的試験による研究6)～10)と、2つを柱としている。臨床において、常日頃から疑問に感じ、未だ尚十分に解明が為されていない内容について、北里東医研の特徴を活かした研究を行っている。

今年の研究内容は、昨年の研究テーマを継続し、一部の研究成果に関しては業務に反映し、学会にて発表を行った。

- 1) 「リスクマネージメントの充実及びプレアポイド報告の実施」

昨今、漢方薬を扱う薬局は少なくない。薬を扱うからには、その業務に対するリスクに西洋・漢方の違いはない。漢方を専門とする薬局であるからこそ、発信できるリスクに対するマネジメントや漢方医療の特殊性を活かしたプレアボイドについてまとめ、局内の充実をはかり、外部への積極的な発信・啓蒙を促進することを目的とする。

## 2)「服薬指導の充実を目的とした患者対応Q&Aの作成」

患者による薬局への問い合わせ内容をまとめ、服薬指導に役立てる目的でFAQ形式に整理することを目指す。そして、今後の窓口や電話の問い合わせに対し、迅速に対応できるよう、また新人薬剤師教育に役立てることを目的とする。

## 3)「漢方薬と西洋薬の併用実態調査及び各疾患における漢方薬の有用性の検討」

西洋医学的治療に対して、漢方薬の併用による症状・愁訴の改善、薬剤減量の可能性を調査・解析することによって漢方治療独自の意義を見出すことを目的とする。

## 4)「日本・中国における漢方処方に対する使用目標の変遷調査及び服薬指導への活用」

東医研頻用処方について、処方原典及び日本漢方における使用目的を調査し、使用目標の変遷を理解し、服薬指導に役立てる。

## 5)「常煎法の成立起源及びその経緯に関する調査」

現代における漢方薬の煎じ方は、ほとんどの処方において“常煎法”と呼ばれる統一化された方法であることはよく知られている。しかし、その成立起源を明らかにした文献はない。今回、臨床における“常煎法”の意味及び研究における煎じ薬調製方法の根拠に役立てることを目的に調査した。

## 6)「漢方薬レトルトパックにおける安全性の検討」

煎剤を毎日煎じられない患者に対して提供している漢方薬レトルトパックの品質について、成分・風味及び細菌学的な視点からその安定性・安全性を検討する。

## 7)「漢方薬(煎剤)に対するマスクングの検討」

比較的飲みづらいとされる黄連解毒湯の煎剤について、飲み易くさせるためのマスクングアイテムの検索及びマスクングによる煎剤の有用性を検討し、服薬指導に役立てることを目指す。

## 8)「臨床における生薬の簡便な品質評価法に対する検討」

生薬の品質評価は経験則による主観的な評価を主とするが、さらに客観的で簡便・安価な評価法の確立を目指し、臨床に応用する。

## 9)「漢方薬(煎剤)中に存在する無機元素量の解明」

疾患によっては摂取制限がある無機元素があ

る。医療用漢方製剤においては含有する無機元素量はよく調査されているが、煎剤については十分に解明されていないことから、その全容を明らかにし、臨床に役立てることを目的とする。

## 10)「漢方薬の経験的な服薬指導と科学的な根拠についての検討」

漢方薬の煎じ方(調製法)、服用方法、服用時間、服用温度などの服薬指導は、経験的に行われていて、その中には根拠がないものも多い。漢方薬の治療効果を最大限に発揮するためには、不明瞭な部分は明確にしていく必要がある。それらに関する文献調査及び近年の研究内容を調査し、必要に応じて科学的な根拠の証明を行い、漢方薬の服薬指導に役立てることを目的とする。

## ◇薬剤業務の活動内容

煎じ代行業務は2002年10月にスタートし、8年が経過している。煎じ代行業務は、当初、煎じ薬を希望したいが煎じる時間がない・手間が掛かる等の患者からの訴えに対し、改善策を模索する上で始まった業務である。煎じ代行への需要は年々増加しているなか、患者への更なるサービス向上を図るため、煎じ代行開始3年目に、煎じ代行依頼患者を対象にアンケートを実施した。その結果、患者からの支持を受け、煎じ代行が有意義であることが示唆された。しかし、現在多くの患者からの代行依頼によって、キャパシティを超える事態となっている。現在、患者へのサービスの一貫として、煎じ代行拡充のための準備を進めている。

## ◇教育啓蒙活動

北里学園との法人統合により、北里大学薬学部と更に深い関わりを持つようになった。薬剤部所属の薬剤師が講師として“東洋医学概論”や“生薬学”のなかで講義を行った。“生薬学”の中で、2年生を対象に早期体験実習として、東医研薬局や資料展示室での見学・講義を行った。現在、薬学部においても薬学教育モデル・コアカリキュラムである「現代医療の中の生薬・漢方薬」として、漢方医学の考え方など基本知識と技能を修得することが義務づけられている。ここ北里大学では、漢方を熟知した臨床医や薬剤師という人材を活かした特色ある薬学教育が可能であり、当薬剤部は講義や実習を通して薬学生の育成に当たっている。

他薬学大学における教育活動として、例年通り、明治薬科大学に講師を派遣し、病院漢方薬局の業務に関して講義を行った。横浜薬科大学薬学生には早期体験実習として、当施設での見学・講義を

行った。

また、市民講座において、漢方薬や生薬の知識向上の為に、当薬剤部へ講師の依頼もあり、漢方薬の試飲なども行った。

国内外からの見学者の受け入れも数多く行った。

＜教育（講義・実習）・見学研修＞

- 2010/7/28：医学生・臨床医のための東洋医学セミナー講義「漢方薬学」生薬（坂田幸治）・調剤の実際（中村恵子）・薬局実習（薬剤部全員）
- 2010/8/4：横浜薬科大学学生・金成俊教授他、見学研修（緒方千秋・坂田幸治）
- 2010/9～12（9回）：北里大学薬学部2年生学生280名・小林教授・白畑講師、薬局実習（薬剤部全員）
- 2010/7/16～8/29：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館、生薬標本の貸出（医史学研より依頼）
- 2010/10/21～12/13：戸田市立郷土博物館、生薬標本の貸出（医史学研より依頼）

◇学術論文(学会誌)

なし

◇学会発表(一般演題)

- 1) 山下知子、緒方千秋、坂田幸治、村主明彦、花輪壽彦：漢方処方原典を活用した服薬指導 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 28
- 2) 須藤岳大、坂田幸治、緒方千秋、村主明彦、花輪壽彦：黄連解毒湯に対する飲料水混合時における成分含有量の検討(第3報) 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5
- 3) 中村恵子、緒方千秋、村主明彦、花輪壽彦：漢方薬服用患者からの問い合わせと対応 日本病院薬剤師会関東ブロック 第40回学術大会(東京) 2010. 8. 29
- 4) 星真奈美、坂田幸治、緒方千秋、村主明彦、花輪壽彦：常煎法の成立起源及びその経緯に関する調査 第67回日本東洋医学会関東甲信越支部総会(埼玉) 2010. 10. 17

◇学会発表(シンポジウム, パネル)

- 1) 坂田幸治：漢方薬局の現状 第18回天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京) 2010. 11. 12

◇公開講座

- 1) 緒方千秋：漢方薬の世界 さがまちコンソーシアム大学「健康に役立つ東洋医学」(東京) 2010. 7. 25
- 2) 坂田幸治：漢方薬と生薬 第10回東洋医学健康フォーラム(東京) 2010. 10. 9

- 3) 緒方千秋：漢方薬の服薬指導に必要な知識—補剤使用時のコンプライアンス・治療効果向上のための知識— 東京漢方調剤フォーラム 2010(東京) 2010. 10. 31
- 4) 緒方千秋：漢方処方と病院調剤 平成22年度漢方薬・生薬研修会(東京) 2010. 11. 7
- 5) 坂田幸治：生薬の生産と流通 明治薬科大学薬剤師生涯学習講座(東京) 2010. 11. 28

◇その他

- 1) 緒方千秋：生薬の臨床応用 北里大学薬学部2年前期 生薬学Ⅰ(東京) 2010. 7. 5
- 2) 緒方千秋：漢方医療と薬剤部 北里大学薬学部2年後期 生薬学Ⅱ(東京) 2010. 9. 10
- 3) 坂田幸治：医療用漢方処方 北里大学薬学部3年後期東洋医学概論(東京) 2010. 10. 13
- 4) 緒方千秋：漢方薬の調剤 北里大学薬学部3年後期東洋医学概論(東京) 2010. 10. 20
- 5) 坂田幸治：生薬の生産と流通 北里大学薬学部2年後期 生薬学Ⅱ(東京) 2010. 12. 3

## II. 研究部門

研究部門長 山田陽城(兼任)

### II-1. 基礎研究部

部長(兼担)	山田陽城(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室教授・同大学院感染制御科学府教授)
副部長(兼担)	清原寛章(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室准教授)
室長補佐(兼担)	永井隆之(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師)
室長補佐(兼担)	矢部武士(北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師)
研究員	Dr. Anton Minchev Slavov(ブルガリア・フードテクノロジー大学, 平成22年4月1日～平成22年9月30日) Chatubhong Singharachai(タイ・チュラロンコン大学, 平成22年5月1日～平成22年12月28日) Dr. Krit Thirapanmethee(タイ・マヒドン大学, 平成22年10月1日～平成22年11月29日)
研究生	関谷路子(北里大学大学院・感染

研究生	制御科学府博士課程院生) 穂苅 玲(北里大学大学院・感染 制御科学府博士課程院生)
研究生	高田愛美(北里大学大学院・感染 制御科学府修士課程院生)
研究生	古本明大(北里大学大学院・感染 制御科学府修士課程院生)
研究生	船見裕介(北里大学大学院・感染 制御科学府修士課程院生)
研究生	西本裕紀(北里大学大学院・感染 制御科学府修士課程院生)
研究生	畑 憲太郎(北里大学大学院・感 染制御科学府修士課程院生)
研究生	青木紗和子(北里大学大学院・感 染制御科学府修士課程院生)
研究生	青木悠香(北里大学大学院・感染 制御科学府修士課程院生)
研究生	奥田沙理(北里大学大学院・感染 制御科学府修士課程院生)
研究生	酒井裕介(北里大学大学院・感染 制御科学府修士課程院生)

#### ◇研究概要

基礎研究部では漢方薬の薬効の科学的解明を目的として、漢方方剤や生薬の薬理及びその作用成分の解明や作用機序の生化学的解明に関する研究を行っている。特に漢方処方薬の薬効解明では臨床効果との関連を検討するため、臨床研究部との共同研究も進めている。研究テーマは「漢方処方薬の薬効と作用物質の解明」、「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」、「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」の3つに大別される。

本年度の研究テーマのうち、「漢方処方薬の薬効と作用物質の解明」では、1) 小青竜湯の気道炎症に対する薬効機序の解析、2) 香蘇散の抗うつ作用の機序の解析、3) 加味温胆湯の抗うつ作用の機序の解析、4) 補中益気湯の腸管上皮免疫機能に対する作用の解析、5) 麻黄湯など漢方処方薬のインフルエンザウイルス感染防御作用の解析についてを検討した。「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」では、1) 和漢薬由来の腸管免疫調節活性を有する多糖の免疫薬理活性について検討した。「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」では、1) マラリアに対する抗感染症物質の探索、2) 補中益気湯の腸上皮細胞免疫機能調節活性物質の探索、3) 和漢薬の中樞神経系に対する作用の解析のための基盤研究について検討を行った。

また、日タイ拠点大学方式学術交流事業の一環として、タイのマヒドン大学薬学部の Krit Thirapanmethee 講師を留学研究員として受け入

れ、タイ産生薬からの抗感染症薬の探索に関する共同研究を実施した。また、タイ・チュラロンコン大学の Chatubhong Singharachai が留学研究員としてタイ伝統処方薬の品質管理法の開発に関する共同研究を行った。また、ブルガリア・フードテクノロジー大学の Anton Minchev Slavov 講師が留学研究員としてブルガリア産植物由来多糖の免疫調節活性に関する共同研究を行った。基礎研究部ではこの他国内やタイ、サウジアラビア、ノルウェーなどの国外研究機関および大学などとの種々の共同研究を継続して進めている。

#### ◇学術論文(学会誌)

- 1) Kiyohara H, Nonaka K, Sekiya M, Matsumoto T, Nagai T, Tabuchi Y, Yamada H Polysaccharide-containing macromolecules in a Kampo (traditional Japanese herbal) medicine, Hochuekkito: Dual active ingredients for modulation of immune functions on intestinal Peyer's patches and epithelial cells Evid. Based Complement. Alternat. Med. in press. (doi:10.1093/ecam/nep193)
- 2) Yabe T, Hirahara H, Harada N, Ito N, Nagai T, Sanagi T, Yamada H Ferulic acid induces neural progenitor cell proliferation in vitro and in vivo Neuroscience 165(2) : 515-524 (2010)
- 3) Kiyohara H, Uchida T, Takakiwa M, Matsuzaki T, Hada N, Takeda T, Shibata T, Yamada H Different contribution of side-chains in  $\beta$ -D-(1 $\rightarrow$ 3,6)-galactans on intestinal Peyer's patch-immunomodulation by polysaccharides from Astragalus mongholicus Bunge Phytochemistry 71(2-3) : 280-293 (2010)
- 4) Sanagi T, Yabe T, Yamada H Adenoviral gene delivery of pigment epithelium-derived factor protects striatal neurons from quinolic acid-induced excitotoxicity J. Neuropathol. Exp. Neurol. 69(3) : 224-233 (2010)
- 5) Iwatsuki M, Kinoshita Y, Niitsuma M, Hashida J, Mori M, Ishiyama A, Namatame M, Nishihara-Tsukashima A, Nonaka K, Masuma R, Otoguro K, Yamada H, Shiomi K, Ômura S Antitrypanosomal peptaibiotics, trichosporins B-VIIa and B-VIIb, produced by Trichoderma polysporum FKI-4452 J. Antibiot. 3(4) : 331-333 (2010)
- 6) Namba T, Yabe T, Gonda Y, Ichikawa N,

- Sanagi T, Arikawa-Hirasawa E, Mochizuki H, Kohsaka S, Uchino S Pigment epithelium-derived factor up-regulation induced by memantine, an N-methyl-D-aspartate receptor antagonist, is involved in increased proliferation of hippocampal progenitor cells *Neuroscience* 167(2) : 372-383 (2010)
- 7) Otoguro K, Iwatsuki M, Ishiyama A, Namatame M, Nishihara-Tsukashima A, Sato S, Hatsu M, Iinuma H, Shibahara S, Nimura S, Kondo S, Yamada H, Ōmura S In vitro and in vivo antiprotozoal activities of bispolides and their derivatives *J. Antibiot.* 63(5) : 275-277 (2010)
- 8) Nagai T, Shimizu Y, Shirahara T, Sunazuka T, Kiyohara H, Ōmura S, Yamada H Oral adjuvant activity for nasal influenza vaccine by combination of trihydroxy fatty acid stereoisomers from the tuber of *Pinellia ternata* *Int. Immunopharmacol.* 10(6) : 655-661 (2010)
- 9) Otoguro K, Iwatsuki M, Ishiyama A, Nakamura M, Nishihara-Tsukashima A, Shibahara S, Kondo S, Yamada H, Ōmura S Promising lead compounds for novel antiprotozoals *J. Antibiot.* 63(7) : 381-384 (2010)
- ◇著書
- 1) Yamada H "Japanese Kampo Medicine" In *Traditional Medicine* (edited by Steven B. Kayne) 分担執筆 Pharmaceutical Press : 225-256, London (2010)
- ◇総説
- 1) 山田陽城、清原寛章、松本 司、永井隆之 : 漢方薬と免疫 小児科診療 73(3) : 387-391 (2010)
- 2) Yabe T, Sanagi T, Yamada H The neuroprotective role of PEDF : Implication for the therapy of neurological disorders *Curr. Mol. Med.* 10(3) : 259-266 (2010)
- ◇学会発表(一般講演)
- 1) Sekiya M Immunomodulating effects of a Kampo medicine, Hochuekkito on intestinal epithelial functions(Bangkok, Thailand) 拠点大学交流事業フォローアップセミナー 2010. 3. 2
- 2) 船見裕介, 清原寛章, 柴田敏郎, 山田陽城 : ナイモウオウギ由来のパイエル板免疫機能調節多糖の免疫薬理作用 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 29 [日本薬学会第130年会要旨集 2 p.182]
- 3) 西本裕紀, 関谷路子, 清原寛章, 矢部武士, 山田陽城 : 補中益気湯の腸上皮細胞に対する作用成分の解析 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 29 [日本薬学会第130年会要旨集 2 p.182]
- 4) 河村有香, 清原寛章, 永井隆之, 平本忠浩, 大宮忠将, 山田陽城 : 藿香由来の抗インフルエンザウイルスセスキテルペン 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 29 [日本薬学会第130年会要旨集 2 p.179]
- 5) 金杉 聡, 山本 剛, 和泉直行, 増間碌郎, 野中健一, 永井隆之, 山田陽城, 塩見和朗, 大村 智 : *Trichoderma atroviride*の生産する抗インフルエンザウイルス物質の構造および活性 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 29 [日本薬学会第130年会要旨集 2 p.102]
- 6) 志村 亮, 羽田紀康, 竹田忠紘, 木内文之, 山田陽城 : ナイモウオウギ由来多糖に関するモデル化合物の合成研究 日本薬学会第130年会(岡山) 2010.3.29 [日本薬学会第130年会要旨集 2 p.232]
- 7) 石山亜紀, 乙黒一彦, 岩月正人, 生田目 幸, 塚島明希, 野中健一, 木下雄太, 高橋洋子, 増間碌郎, 塩見和朗, 山田陽城, 大村 智 : 微生物代謝産物由来の抗トリパノソーマ原虫活性物質の探索研究(2) 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 29 [日本薬学会第130年会要旨集 2 p.249]
- 8) 新妻 恵, 岩月正人, 森 美穂子, 橋田純子, 宇井英明, 塩見和朗, 松本厚子, 高橋洋子, 石山亜紀, 生田目 幸, 塚島明希, 乙黒一彦, 山田陽城, 大村 智 : 放線菌K05-0178 株の生産する抗トリパノソーマ原虫活性物質に関する研究 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 29 [日本薬学会第130年会要旨集 2 p.102]
- 9) 橋田純子, 岩月正人, 森 美穂子, 新妻 恵, 宇井英明, 塩見和朗, 野中健一, 増間碌郎, 石山亜紀, 生田目 幸, 塚島明希, 乙黒一彦, 山田陽城, 大村 智 : 糸状菌FKI-3573株の生産する抗トリパノソーマ原虫活性物質に関する研究 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 29 [日本薬学会第130年会要旨集 2 p.102]
- 10) 古本明大, 矢部武士, 山田陽城 : LPS誘発 sickness behaviorに対する加味温胆湯の改善作用 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 30 [日本薬学会第130年会要旨集 3 p.225]

- 11) 畑 憲太郎, 佐柳友規, 矢部武士, 山田陽城 :  
Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF)  
によるグルタミン酸トランスポーター発現増  
強作用の解析 日本薬学会第130年会(岡山)  
2010. 3. 30 [日本薬学会第130年会要旨集 3  
p.180]
  - 12) 関谷路子, 清原寛章, 山田陽城 : 補中益気湯  
の腸上皮細胞に対する機能調節作用の解析  
日本薬学会第130年会(岡山) 2010.3.30 [日本  
薬学会第130年会要旨集 3 p.225]
  - 13) 高田愛美, 永井隆之, 山田陽城 : 漢方方剂「小  
青竜湯」の気道炎症モデルマウスの肺におけ  
る作用機序の検討 日本薬学会第130年会(岡  
山) 2010. 3. 30 [日本薬学会第130年会要旨集  
3 p.224]
  - 14) Kiyohara H, Yamada H Glycobiology of  
plant polysaccharides towards modulation  
of intestinal immune system The 25th  
International Carbohydrate Symposium 2010  
(千葉) 2010.8.1 [Abstract p.351]
  - 15) 青木悠香, 永井隆之, 山田陽城 : 漢方方剂「麻  
黄湯」のインフルエンザウイルス感染に対す  
る薬効機序の検討 第23回バイオサイエンス  
フォーラム(青森) 2010. 8. 5 [第23回バイオ  
サイエンスフォーラム講演要旨 p.23]
  - 16) 西本裕紀, 関谷路子, 清原寛章, 矢部武士,  
山田陽城 : 和漢薬からの腸上皮細胞免疫機能  
調節成分の探索 第23回バイオサイエンス  
フォーラム(青森) 2010. 8. 5 [第23回バイオ  
サイエンスフォーラム講演要旨 p.41]
  - 17) Yamada H, Kiyohara H, Nagai T Recent  
progress on elucidation of immunomodulating  
activity and its action mechanism of Kampo  
(Japanese herbal) medicines (Hong Kong,  
China) 9th Meeting of Consortium for  
Globalization of Chinese Medicine (CGCM)  
2010. 8. 24 [ABSTRACTS p.157]
  - 18) 永井隆之, 高田愛美, 山田陽城 : 小青竜湯の  
気道炎症モデルマウスに対する作用のステ  
ロイド薬との比較 第27回和漢医薬学会学  
術大会(京都) 2010. 8. 28 [J. Trad. Med. 27  
(supple) p.103]
  - 19) 西本裕紀, 関谷路子, 清原寛章, 矢部武士,  
山田陽城 : 補中益気湯の腸上皮細胞免疫機  
能調節成分の解析 第27回和漢医薬学会学  
術大会(京都) 2010. 8. 28 [J. Trad. Med. 27  
(supple) p.106]
  - 20) 矢部武士, 古本明大, 山田陽城 : LPS誘発  
sickness behavior様行動に対する加味温胆  
湯の作用 第27回和漢医薬学会学術大会(京  
都) 2010. 8. 28 [J. Trad. Med. 27 (supple)  
p.110]
  - 21) 青木悠香, 永井隆之, 山田陽城 : 麻黄湯のイ  
ンフルエンザウイルス感染に対する薬効機序  
の検討 第27回和漢医薬学会学術大会(京都)  
2010. 8. 29 [J. Trad. Med. 27 (supple) p.89]
  - 22) 関谷路子, 清原寛章, 矢部武士, 山田陽城 :  
腸上皮細胞におけるパターン認識分子発現に  
対する補中益気湯の作用 第27回和漢医薬学  
会学術大会(京都) 2010.8.29 [J. Trad. Med.  
27 (supple) p.103]
  - 23) 畑 憲太郎, 佐柳友規, 矢部武士, 山田陽城 :  
PEDFによるグルタミン酸トランスポーター  
発現増強作用の解析 Neuro2010(第53回日本  
神経化学会大会、第33回日本神経科学大会お  
よび第20回日本神経回路学会大会 合同大会)(兵庫)  
2010. 9. 2 [神経化学 抄録号 p.544]
  - 24) 船見裕介, 清原寛章, 柴田敏郎, 山田陽城 :  
ナイモウオウギ地上部由来パイエル板免疫機  
能調節多糖による免疫応答の変化の解析 日  
本生薬学会第57回年会(徳島) 2010. 9. 25 [日  
本生薬学会第57回年会要旨集 p.80]
  - 25) Yabe T, Hata K, Sanagi T, Nakagawa  
T, Yamada H Pigment epithelium-  
derived factor (PEDF) induces glutamate  
transporters expression in rat cultured  
astrocytes (San Diego, USA) Neuroscience  
2010 2010. 11. 17
  - 26) Kiyohara H, Funami Y, Matsuzaki T,  
Takakiwa M, Uchida T, Yamada H  
Intestinal Peyer's patch immunomodulating  
polysaccharides from medicinal herbs and  
their immunopharmacological activity  
(Bangkok, Thailand) NRCT-JSPS Core  
University Program on Natural Medicine  
in Pharmaceutical Sciences, The 9th Joint  
Seminar 2010. 12. 8
- ◇学会発表(特別招待)
- 1) 山田陽城 : 漢方薬の作用メカニズムの解明と  
その応用 第29回家庭薬開発研究シンポジウ  
ム(富山) 2010. 2. 18
  - 2) 永井隆之, 高田愛美, 山田陽城 : 小青竜湯の  
気管支喘息に対する薬効機序の気道炎症モデ  
ルマウスを用いた解析—ステロイド薬との比  
較— 第29回漢方免疫アレルギー研究会学術  
集会(東京) 2010.6.12 [講演要旨集 p.21]
  - 3) 山田陽城 : 漢方薬の効き目 ~薬理作用とその  
メカニズムから見た特徴~ 第33回茨城県東  
洋医学研究会学術講演会(茨城) 2010. 7. 1

- 4) Yamada H Anti-infectious effect and active ingredients of Kampo (Japanese herbal) medicines Workshop Japan-Egypt "Pharmacognosy and Traditional Medicine" (東京) 2010. 7. 22
- 5) Yamada H Recent progress on elucidation of action mechanism of Kampo (Japanese herbal) medicines(北京、中国) 北京大学医学部中西医結合学系設立式典国際記念講演会 2010. 9. 18
- 6) 山田陽城、清原寛章、永井隆之、松本 司、矢部武士：漢方薬の作用メカニズムの解析から学ぶこと 第18回天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京) 2010. 11. 12
- 7) Yamada H, Nagai T, Yabe T Search of anti-infectious and anti-depressant-like substances from the Kampo medicines through elucidation of their action mechanism (Bangkok, Thailand) NRCT-JSPS Core University Program on Natural Medicine in Pharmaceutical Sciences, The 9th Joint Seminar 2010. 12. 8
- 6) 永井隆之, 山田陽城：プロテオミクスは漢方医薬学に貢献できるか？—プロテオーム解析による漢方薬の薬効解明とマーカー探索の成果と課題— 第8回北里疾患プロテオーム研究会(東京) 2010. 9. 2 [第8回北里疾患プロテオーム研究会講演要旨集 p.14-15]
- 7) 山田陽城 漢方薬の薬効解明と創薬への応用 第一回全国共同利用・共同研究「酵素学研究拠点」シンポジウム—酵素学から始まる新たな創薬研究—(東京) 2010. 9. 10 [講演要旨 p.3]
- 8) Yamada H, Kiyohara H Structure and immunomodulating activities of pectins and pectic polysaccharides from medicinal herbs(Honolulu, USA) 2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2010. 12. 16

#### ◇学会発表(その他)

- 1) 河村有香, 清原寛章, 永井隆之, 平本忠浩, 大宮忠将, 山田陽城：薫り高い抗インフルエンザウイルス成分～天然からの贈り物をどう活用するか～ 日本薬学会第130年会(岡山) 2010. 3. 29 [日本薬学会第130年会講演ハイライト p.23]
- 2) 永井隆之, 山田陽城：乳酸菌およびビフィズス菌の感染防御作用 平成22年度糧食研究会特定委託研究成果報告会(東京) 2010.6.11 [平成21年度研究の概要 p.21-27]

#### ◇学会発表(シンポジウム, パネル)

- 1) Yamada H Attempt of drug discovery from medicinal plants including Kampo (Japanese herbal) medicine on infectious and neural diseases(Bangkok, Thailand) 拠点大学交流事業フォローアップセミナー 2010. 3. 2
- 2) Nagai T Anti-allergic effects of a Kampo medicine, Shoseiryuto on airway inflammation in a mouse model(Bangkok, Thailand) 拠点大学交流事業フォローアップセミナー 2010. 3. 2
- 3) 永井隆之、山田陽城：麻黄剤の辛温解表作用とその機序の解析 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5 [日本東洋医学雑誌講演要旨集p.137]
- 4) 清原寛章, 山田陽城：パイエル板免疫機能調節作用を有する植物多糖の糖鎖構造と機能 第21回日本生体防御学会学術総会(宮城) 2010. 7. 23 [第21回日本生体防御学会学術総会講演抄録集 p.19]
- 5) 清原寛章, 関谷路子, 永井隆之, 矢部武士, 山田陽城：粘膜免疫機構の制御からの漢方薬の薬効解析—補中益気湯を例にして— 第13回天然薬物研究方法論アカデミー覚王山シンポジウム(愛知) 2010. 8. 22 [第13回天然薬物研究方法論アカデミー覚王山シンポジウム講演要旨集 p.14-15]

#### ◇公開講座

- 1) 山田陽城：漢方薬の薬理作用とそのメカニズムから見た特徴 卸教育研修会(東京) 2010. 11. 10

## II-2. 臨床研究部

部 長	及川 哲 郎
室 長	日向須美子
上級研究員	伊藤 直 樹 遠藤 真理
研究員	坂田 幸 治(兼務)
漢方研究室室長	村主 明 彦(兼務)
研究員	鈴木 邦 彦(兼務) 早崎 知 幸(兼務) 小田口 浩(兼務) 五野由佳理(兼務) 齋藤 絵 美(兼務) 星野 卓 之(兼務) 望月 良 子(兼務) 山田 和 美(兼務)



	石井恵美(兼務)
	福田知顕(兼務)
	洪里和良(兼務)(～22.3)
	堀田広満(兼務)
	堀川朋恵(兼務)
	森裕紀子(兼務)(22.4～)
	川鍋伊晃(兼務)(22.4～)
	頼建守(兼務)
	櫻井正智(兼務)
	高橋裕子(兼務)
鍼灸研究室室長	伊藤剛(兼務)
研究員	伊東秀憲(兼務)
	石野尚吾(兼務)
	柳澤紘(兼務)
	小山基(兼務)
	石原武(兼務)
	掛川一五(兼務)
	天野陽介(兼務)(～22.3)
	益山亜紀子(兼務)
	井田剛人(兼務)
	黒岩奈々子(兼務)
	小濱志帆(兼務)
大学院生	宮川歩(兼務)
	八代忍
	津田篤太郎
	猪健志
	加藤耕平
	白石真純(22.4～)
	藤井琴未(22.4～)
研究員	米田吉位
	有島武志
	井上愛子
	洪里和良(22.4～)
研究生	白石真純(～22.3)
	加藤千草(～22.3)
	髭浅美(～22.3)
	竹原麻衣子
	酒井美帆(22.10～)
	大石麗奈(22.10～)

#### ◇研究概要

臨床研究部は、漢方診療部および鍼灸診療部との連携のもとで、漢方薬や鍼灸の臨床効果の評価を行うと共に、その作用機序の解明や新たな薬効の開発を目的とした臨床研究、基礎研究を行っている。そのため、専任のスタッフのみならず、医師、鍼灸師、薬剤師等の多くが兼務研究員として参画し、以下の研究を行っている。

当研究部の研究テーマは多岐にわたっているが、大きく分けると下記のようにまとめられる。

#### 1. 消化管に及ぼす漢方薬の影響に関する研究

##### (1) 機能性消化管疾患に対する漢方処方薬の薬効評価

漢方薬は胃腸によいといわれるが、漢方処方が消化管機能にどのような影響を及ぼしているか、これまで十分なデータが示されてこなかった。当研究部では Functional dyspepsia や過敏性腸症候群といった機能性消化管疾患に焦点を当て、胃排出機能や腸管ガス量測定などを用いた漢方処方の薬効評価を試みている。

##### (2) 呼気試験を用いた消化機能研究

13 C 化合物による呼気試験を用いて、漢方処方の消化機能に及ぼす影響を研究している。

(3) 炎症性腸疾患に対する漢方薬の有効性の検討  
年々増加しつつある、潰瘍性大腸炎等の炎症性腸疾患に対する漢方薬の効果や作用機序を、動物モデルを用いて検討している。

#### 2. 精神神経疾患を中心とした気剤の薬効評価

##### (1) 漢方薬および生薬の香りの中枢神経系に対する作用の解析

漢方薬および生薬の香りのうつ症状に対する効果を動物モデルで検討し、その詳細な作用メカニズムを様々な実験手法を用いて多角的に研究している。

##### (2) 気剤の効果の客観的評価

気血水理論の中で、「気」の解明は最も遅れている。我々は、「気」と密接に関連していると考えられる自律神経機能が、「気」の異常とどのように関連しているか、半夏厚朴湯をはじめとする気剤投与でどのような影響を受けるかを、瞳孔反応や心拍変動などを指標にして評価、解析している。

#### 3. 悪性腫瘍に及ぼす漢方薬の効果と作用メカニズムの研究

漢方薬は、がんの補助療法として、術後の体力回復や化学療法・放射線療法の副作用軽減を目的として用いられている。しかし、私たちは、補助療法としての漢方治療ではなく、積極的にがんの再発を予防するような漢方治療を目指して、がん転移に対する漢方薬の作用の研究を行っている。がんの転移抑制効果を指標としたスクリーニングを行い、候補となる処方を見出し、現在、その作用機構の解明を行っているところである。

#### 4. 婦人科系疾患に用いられる漢方薬の作用機序解明

漢方薬は婦人科系疾患に用いられることが多いが、漢方薬自身に女性ホルモン(エストロゲン)

様作用があるのかどうかについては、明らかにならなかった。漢方薬は経験的に安全性が高いと考えられおり、妊婦さんやホルモン感受性癌患者さんに投与されることもある。そこで、私たちは、漢方薬の安全性を科学的に評価するために、婦人科系疾患頻用漢方処方のエストロゲン様活性を *in vitro* 及び *in vivo* で解析を行った。*in vitro* の解析では低レベルのエストロゲン様活性が検出されたが、*in vivo* の解析では、更年期モデルマウスの子宮に影響を与えることはなく、安全性が高いことが示唆された。さらに、婦人科系疾患頻用漢方処方のひとつの温経湯には、更年期モデルマウスの海綿骨密度の低下を回復させる効果があることを見出した。現在、ホルモン感受性がんに対して漢方薬が作用するのかどうか、また、温経湯が更年期以降の患者さんの骨密度の低下を予防できるのかどうかの解析を継続している。

#### 5. 漢方薬と西洋薬の相互作用

抗がん剤やステロイド剤は、長期間の投与によって薬剤耐性を生じる。この原因のひとつとして、薬物トランスポーターの発現誘導が関与している。癌細胞や免疫系細胞に薬物トランスポーターが発現すると、薬物を細胞外へ排出するため、薬剤を投与しても効かなくなってしまう。また、このトランスポーターは基質特異性が低いため、一度発現すると、異なる種類の抗がん剤も細胞外へ排出してしまうため、多剤耐性を生じる。このような薬物トランスポーターの発現や機能を抑制する漢方薬を探索し、薬剤耐性を克服するための漢方治療を目指して研究を行っている。

#### 6. 整形外科疾患に対する、漢方薬の有効性の検証

種々の整形外科疾患に対して従来から治療に用いられてきた漢方薬や鍼灸の有効性を、さまざまな客観的な指標を導入して明らかにし、高い evidence の構築を目指した臨床研究を行っている。

#### 7. 漢方薬による副作用の予測診断法の開発

甘草が含有するグリチルリチン酸によって生じる偽アルドステロン症の発症前診断（遺伝子診断）法の開発を行っている。

#### 8. 遺伝子発現解析法を使った漢方薬の効果の検討

DNA チップを用いた網羅的遺伝子発現解析法を行うことによって、多成分系である漢方薬が人体へどのように作用しているかを研究している。

#### 9. 冷え症の温熱生理学的解析

未だ科学的解明がされていない冷え症について、その病態と漢方方剤の有用性について臨床研究を行っている。

#### ◇学術論文—学会誌

なし

#### ◇学術論文(症例報告書)

- 1) Tokutaro Tsuda, MD; Kazuhiko Kobayashi, MD, PhD; Kunihiro Seki, MD, PhD; Shinobu Yashiro, MD; Takeshi Ino, MD; Kohei Kato; Toshihiko Hanawa, MD, PhD The Effect of a Japanese Traditional Medicine, Hachimijiogan (Kampo), on Regulatory CD4+CD25+ T Cells in Mikulicz's Disease Alternative Therapies in Health and Medicine 16(2) : 60-63 (2010)
- 2) Tokutaro Tsuda, Shinobu Yashiro, Yuji Gamo, Koji Watanabe, Takayuki Hoshino, Tetsuro Oikawa, Toshihiko Hanawa Discrepancy Between Clinical Course and Drug-Induced Lymphocyte Stimulation Tests in a Case of Saireito-Induced Liver Injury Accompanied by Sjögren Syndrome The Journal of Alternative and Complementary Medicine 16(4) : 501-505 (2010)
- 3) 石井恵美、及川哲郎、五野由佳理、小田口浩、早崎知幸、花輪壽彦：当帰芍薬散が有効であった男性の4症例 日本東洋医学雑誌 61(3) : 319-324 (2010)
- 4) 及川哲郎、米田吉位、玄 世鋒、猪 健志、八代 忍、高橋子、橋口一弘、滝口洋一郎、花輪壽彦：めまいに対して沢瀉湯が奏功した3症例 日本東洋医学雑誌 61(3) : 331-336 (2010)
- 5) 及川哲郎、伊藤剛、花輪壽彦：頭痛を伴った慢性副鼻腔炎の3症例 漢方の臨床 57(5) : 746-750 (2010)

#### ◇学術論文(総説)

- 1) 及川哲郎、五野由佳理、小田口浩、若杉安希乃、花輪壽彦：東洋医学(漢方医学)からみた自律神経機能 神経内科 72(1) : 1-7 (2010)
- 2) 及川哲郎、伊藤剛、花輪壽彦：炎症性腸疾患に対する漢方治療 GI research 18巻4号 : 1-5 (2010)
- 3) 加藤耕平、花輪壽彦：肥満の養生 漢方と最新治療 19 : 287-294 (2010)

◇学会発表(一般講演)

- 1) 及川哲郎、五野由佳理、伊藤剛、花輪壽彦：漢方薬による薬物性肝障害症例の検討 日本消化器病学会関東支部第308回例会(東京) 2010. 2. 20
- 2) 及川哲郎、遠藤真理、羽鳥努、花輪壽彦：デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルマウスに対する柴苓湯の効果 第96回日本消化器病学会総会(新潟) 2010. 4. 24
- 3) 及川哲郎、米田吉位、玄世鋒、小田口浩、若杉安希乃、猪健志、花輪壽彦：沢瀉湯投与症例における、臨床効果と水毒徴候の関連について 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5
- 4) 遠藤真理、星野卓之、及川哲郎、花輪壽彦：デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルにおける<sup>13</sup>C酪酸注腸呼気試験を指標とした漢方薬の有効性の検討 第27回和漢医薬学会学術大会(京都) 2010. 8. 28
- 5) 伊藤直樹、永井隆之、及川哲郎、山田陽城、花輪壽彦：香蘇散の抗うつ様効果における脳内モノアミン神経系の関与 第27回和漢医薬学会学術大会(京都) 2010. 8. 28 [J. Trad. Med. 27 (supple) p.111]
- 6) 遠藤真理、及川哲郎、星野卓之、羽鳥 努、花輪壽彦：デキストラン硫酸ナトリウム誘発大腸炎モデルにおける<sup>13</sup>C酪酸注腸呼気試験を指標とした漢方薬の有効性の検討 日本安定同位体・生体ガス医学応用学会大会(東京) 2010. 10. 30
- 7) Naoki Ito, Takeshi Yabe, Yuji Gamo, Takayuki Nagai, Tetsuro Oikawa, Haruki Yamada, and Toshihiko Hanawa Intracerebroventricular injection of orexin-A induces an antidepressive-like effect through hippocampal cell proliferation Neuroscience 2010, SfN's 40th annual meeting 2010. 11. 14
- 8) Tetsuro Oikawa, Go Ito, Toshihiko Hanawa Efficacy of a Kampo Medicine Hangekobokuto on Patients with Functional Dyspepsia, with Special Reference to Gastrointestinal Function 1st Asian-Pacific Topic Conference: Functional Gastrointestinal Disorders(東京) 2010. 11. 27

◇学会発表(シンポジウム, パネル)

- 1) Tetsuro Oikawa, Go Ito, Toshihiko Hanawa Efficacy of Hangekobokuto on Patients with Functional Dyspepsia, with Special Reference to Gastrointestinal Function 5th

International Congress on Complementary Medicine Research 2010. 5. 18

- 2) 及川哲郎、伊藤剛、花輪壽彦：現代医学的評価指標からみた「口訣」の妥当性 半夏厚朴湯を中心に 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 6
- 3) 及川哲郎：漢方胃腸薬はなぜ効くのか 第18回天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京) 2010. 11. 12

◇学会発表(その他)

- 1) 遠藤真理：マウス大腸炎に有効な漢方薬とその有効生薬の解明 第27回和漢医薬学会学術大会(京都) 2010. 8. 28
- 2) 及川哲郎：座談会：消化器の生理と漢方 日本消化器病学会(東京) 2010. 10. 1 [日本消化器病学会雑誌 107巻10号 p.1611-1622]

◇公開講座

- 1) 及川哲郎：消化器疾患の漢方治療 第1回横浜漢方医学セミナー(神奈川) 2010. 7. 1
- 2) 及川哲郎：漢方の基礎 四診(腹診、脈診) 第32回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー(東京) 2010. 7. 26
- 3) 及川哲郎、伊藤直樹：気剤を科学する 第32回医学生・臨床医のための東洋医学セミナー(東京) 2010. 7. 28

◇その他

- 1) 及川哲郎：漢方のEBM 浜松医科大学合同講義(静岡) 2010. 6. 25
- 2) 及川哲郎：漢方臨床の実際 浜松医科大学合同講義(静岡) 2010. 6. 25
- 3) 及川哲郎：「ツムラ・メディカル・トゥデイ」医人列伝シリーズ「本間棗軒」株式会社日経ラジオ社 2010. 8. 25
- 4) 及川哲郎、伊藤 隆：特別対談：半夏厚朴湯の多彩な臨床応用について phil漢方 32：3-7 2010. 11. 1

◇研究助成金

- 1) 研究代表者 花輪 壽彦 分担研究者 日向須美子：平成22年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 50万円
- 2) 伊藤直樹：平成22年度 文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B) 195万円
- 3) 研究分担者 花輪 壽彦(研究代表者 合田幸広) 分担研究者 日向 須美子：平成22年度厚生労働省科学研究費補助金政策創薬総合研究事業 100万円

- 4) 遠藤真理：平成22年度 北里学術奨励金 34.2万円  
 5) 伊藤直樹：平成22年度 北里学術奨励金34.2万円

◇受賞

- 1) 遠藤真理、第27回和漢医薬学会学術大会学会奨励賞受賞、2010. 8. 28

II-3. 医史学研究部

部長	小曾戸	洋
研究員	天野	陽介
	友部	和弘
客員研究員	大津	幸恵
	アンドリュウ・ゴープル	
	猪飼	祥夫
	市川	友里
	浦山	きか
	大浦	宏勝
	郭	秀梅
	小林	健二
	清水	信子
	鈴木	達彦
	館野	正美
	長野	仁
	西卷	明彦
	町	泉寿郎
	宮川	浩也
	矢数	芳英
一般研究員(生)	渡辺	浩二
	永塚	憲治
	野澤	隆幸
	勝井	恵子
	ビクトリア・リー	
	楊	梅

◇研究概要

当研究部の前身は1983年に設置された医史学研究室で、1992年12月より医史学研究部に昇格し、この下に医史文献研究室が置かれる。東洋医学は古い歴史を持つ伝統医学であるから、豊富な経験と知識の多くは古文獻の形で伝えられている。従って、東洋医学を研究し、現代に十分に適用していくためには、まず歴史背景そして文献資料を把握し、その本質を明らかにする必要がある。これが当研究部の研究目的とするところで、開設以来、各研究員によって多種多彩な研究が活発になされ、日本医史学会・日本東洋医学会をはじめ、各種の学会で大きな成果を上げている。研究の基

本的資料となる文献の整備にも精力を注ぎ、既に日本全国はもとより、外国の特殊研究機関と交流を結び、多くの貴重資料を獲て収蔵している。

◇学術論文

- 1) 天野陽介、小曾戸 洋：目でみる漢方史料館(256)片倉鶴陵賛の張仲景像 漢方の臨床 57(1)：2-4 (2010)
- 2) 天野陽介、小曾戸洋、町泉寿郎：目でみる漢方史料館(257)岡本玄冶の肖像 漢方の臨床 57(2)：2-4 (2010)
- 3) 天野陽介、小曾戸洋：目でみる漢方史料館(260)謝観と『中国医学大辞典』 漢方の臨床 57(5)：2-4 (2010)
- 4) 小曾戸洋：目でみる漢方史料館(261)敦煌本「新修本草序例」—新公開の李盛鐸本 漢方の臨床 57(6)：2-4 (2010)
- 5) 小曾戸洋、天野陽介：目でみる漢方史料館(262)『医界之鉄椎』の出版 漢方の臨床 57(7)：2-4 (2010)
- 6) 天野陽介、小曾戸洋：戦国時代の医師 谷野一栢・曲直瀬道三・曲直瀬玄朔 第18回企画展 一乗谷の医師：22-24 (2010)
- 7) 小曾戸洋、吉村重敏：目でみる漢方史料館(263)尾台榕堂の師と『類聚方広義』稿本 漢方の臨床 57(8)：2-4 (2010)
- 8) 小曾戸洋、天野陽介、町泉寿郎：目でみる漢方史料館(264)井上玄徹肖像 漢方の臨床 57(9)：2-4 (2010)
- 9) 小曾戸洋：大塚恭男先生の人と仕事 日本医史学雑誌 56(3)：441-448 (2010)
- 10) 天野陽介、小曾戸洋：目でみる漢方史料館(265)日本の扁鵲像(2) 漢方の臨床 57(10)：2-4 (2010)
- 11) 小曾戸洋：目でみる漢方史料館(266)内藤希哲の『医経解惑論』 漢方の臨床 57(11)：2-4 (2010)

◇学会発表(一般演題)

- 1) 天野陽介：扁鵲画像の変遷 日本医史学会 平成22年4月例会(東京) 2010. 4. 24
- 2) 天野陽介、小曾戸洋、星野卓之、渡辺浩二、津田篤太郎、石野尚吾、花輪壽彦：日本の扁鵲画像考(第2報) 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5 [日本東洋医学雑誌 61別冊 p.258]
- 3) 小曾戸洋、天野陽介、星野卓之、渡辺浩二、津田篤太郎、石野尚吾、花輪壽彦：江戸医学館旧蔵書の行方 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 5 [日本東洋医学雑誌

61別冊 p.258]

- 4) 小曾戸洋、天野陽介、町泉寿郎、星野卓之：  
江戸医学館蔵書集散の顛末 第111回日本医  
史学会学術大会(茨城) 2010. 6. 13 [日本医史  
学雑誌 56巻2号 p.242]
- 5) 天野陽介、小曾戸洋、町泉寿郎、星野卓之：  
東博所蔵の江戸医学館旧蔵書に関する検討  
第111回日本医史学会学術大会(茨城) 2010. 6.  
13 [日本医史学雑誌 56巻2号 p.241]
- 6) 宮川浩也、天野陽介、小曾戸洋、花輪壽彦：『難  
経集注』について 第111回日本医史学会学術  
大会(茨城) 2010. 6. 13 [日本医史学雑誌  
56巻2号 p.221]
- 7) 天野陽介：謝観と『中国医学大辞典』 上海中  
医薬国際フォーラム 2010. 11. 5

#### ◇学会発表(特別講演)

- 1) 天野陽介：難経脈論 浜松市鍼灸マッサージ  
師会60周年記念大会(静岡) 2010. 1. 31
- 2) 小曾戸洋：馬王堆医学書の研究 第38回日本  
医科医史学会学術大会(東京) 2010. 10. 2

#### ◇学会発表(その他)

- 1) 小曾戸洋：大塚先生の人と仕事 日本医史学  
会3月特別例会(東京) 2010. 3. 17

#### ◇公開講座

- 1) 天野陽介：中国伝統医学の基礎「経絡説」 静  
岡県鍼灸マッサージ師会 東洋療法研修講座  
(静岡) 2010. 7. 25
- 2) 小曾戸洋：鍼灸原典閲読演習 第5回鍼灸学校  
教員のための古典講座(東京) 2010. 8. 18
- 3) 天野陽介：『難経集注 旧鈔本』について  
第5回鍼灸学校教員のための古典講座(東京)  
2010. 8. 19
- 4) 小曾戸洋：東洞に至る日本医学の史的背景  
吉益東洞顕彰会特別講演(広島) 2010. 9. 12
- 5) 小曾戸洋：漢方のはなし 戸田市立郷土博物  
館 第26回特別展「鍼・脈・薬—戸田の医療史」  
(埼玉) 2010. 10. 23
- 6) 天野陽介：中国伝統医学の古代史 形成から  
集約まで 静岡市鍼灸マッサージ師会創立  
110周年記念講演会(静岡) 2010. 10. 30
- 7) 小曾戸洋：漢方薬の特質と問題点 第18回  
天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京)  
2010. 11. 11

### Ⅲ. 臨床試験部門

臨床試験部門長 花輪 壽彦

#### Ⅲ-1. EBM センター

室長 小田口 浩  
室員 若杉 安希乃

#### ◇研究概要

EBM センターの目的は漢方医学における Evidence の構築であり、臨床試験の実施が中心となる。本年度は2008年度から実施している漢方医学診断に客観性をもたせるための疫学的研究を継続した。同研究は順調な経過で進行中である。北里研究所病院との共同研究では、インフルエンザに対する漢方薬の有用性を検証する臨床試験が終了し、現在論文化作業中である。他方、過活動膀胱や過敏性腸症候群を対象とした臨床試験も終了し、現在データ解析中である。2010年度は新たにメタボリックシンドロームに対する漢方薬の有用性を検討するランダム化比較試験を開始し、順調に進行中である。また随証治療効果の検討を目的とした臨床研究、漢方診療過程を客観化する試みなども進行中であり、今後も活動範囲を拡大していく予定である。なお、付随的業務として行った新カルテ作成作業もほぼ終了し、運用開始を待つのみとなっている。

#### ◇学会発表(一般演題)

- 1) 小田口 浩、若杉安希乃、及川哲郎、花輪壽彦：インフルエンザ感染症に対する漢方薬麻黄湯、麻黄湯加石膏の有用性を検討するランダム化比較試験 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 6
- 2) 若杉安希乃、小田口 浩、花輪壽彦：北里漢方医学的所見プロジェクト 第4報 所見採取における信頼性の向上を目指して 第61回日本東洋医学会学術総会(愛知) 2010. 6. 6
- 3) 小田口 浩、若杉安希乃、及川哲郎、村主明彦、花輪壽彦、石川まり子、吉田 威、上口美希、池田商洋：漢方医学的所見の予後予測機能—漢方ドック導入にあたり— 第51回日本人間ドック学会学術大会(北海道) 2010. 8. 27
- 4) 若杉安希乃、小田口 浩、及川哲郎、村主明彦、花輪壽彦、石川まり子、吉田 威、上口美希、池田商洋：漢方医学的診断の信頼性—漢方ドック導入にあたり— 第51回日本人間ドック学会学術大会(北海道) 2010. 8. 27
- 5) 若杉安希乃、小田口浩、花輪壽彦：注目度の高い疾患の臨床試験における被験者募集の問題点—メタボリック症候群に対する漢方薬の臨床試験をとおして— 第10回 CRCと臨床試験のあり方を考える会議 2010 in 別府(大分)

2010. 10. 2

- 6) 若杉安希乃、上口美希、石川まり子、小田口浩、及川哲郎、花輪壽彦：本邦初「漢方医学的所見を検証する横断研究、前向きコホート研究」における近隣医療機関との連携体制の構築 第31回日本臨床薬理学会年会(京都) 2010. 12. 2

#### ◇学会発表(特別講演)

- 1) Odaguchi Hiroshi Introduction of Kampo medicine (Traditional Japanese Medicine) and Current Trends and Issues of Clinical Research in Kampo Medicine The 16th anniversary of KIOM international symposium 2010 2010. 10. 26

#### ◇学会発表(シンポジウム, パネル)

- 1) 小田口 浩：漢方にEBMは必要か？ 第18回天然薬物の開発と応用シンポジウム(東京) 2010. 11. 12

#### ◇公開講座

- 1) 小田口 浩：保険未来学に基づく保険医療政策立案開発 JICA集団研修(神奈川) 2010. 8. 11
- 2) 小田口 浩：メタボとサヨナラする方法 第10回東洋医学健康フォーラム(東京) 2010. 10. 9

#### ◇その他

- 1) 若杉安希乃：漢方薬・生薬の活性評価と育薬・創薬(5) 先端生薬学特別講義(東京) 2010. 5. 25
- 2) 小田口 浩：漢方のEBM 平成22年度北里大学医学部第3学年薬理学総論(東洋医学)(神奈川) 2010. 7. 2
- 3) 若杉安希乃：東洋医学からみた農医連携 平成22年度北里大学教育演習C 農医連携論(神奈川) 2010. 10. 12
- 4) 若杉安希乃：漢方のEBM 北里大学薬学部3年後期東洋医学概論(東京) 2010. 10. 27
- 5) 若杉安希乃、渡邊達也、氏原 淳、谷口美恵子、飯村桂子、新地敏博、小田口 浩、及川哲郎、花輪壽彦：研究業績集の作成業務の効率化への取り組み 第6回北里研究所病院研究発表会(東京) 2010. 11. 15

#### ◇研究助成金

- 1) 若杉安希乃：平成22年度文部科学省科学研究費補助金、100万円(挑戦的萌芽研究)
- 2) 小田口 浩：平成22年度厚生労働省科学研究費補助金、219万円(地域医療基盤開発推進研究事業)

## IV. WHO 伝統医学研究協力センター

センター長 花 輪 壽 彦 (兼務)  
事務局長 小 田 口 浩 (兼務)